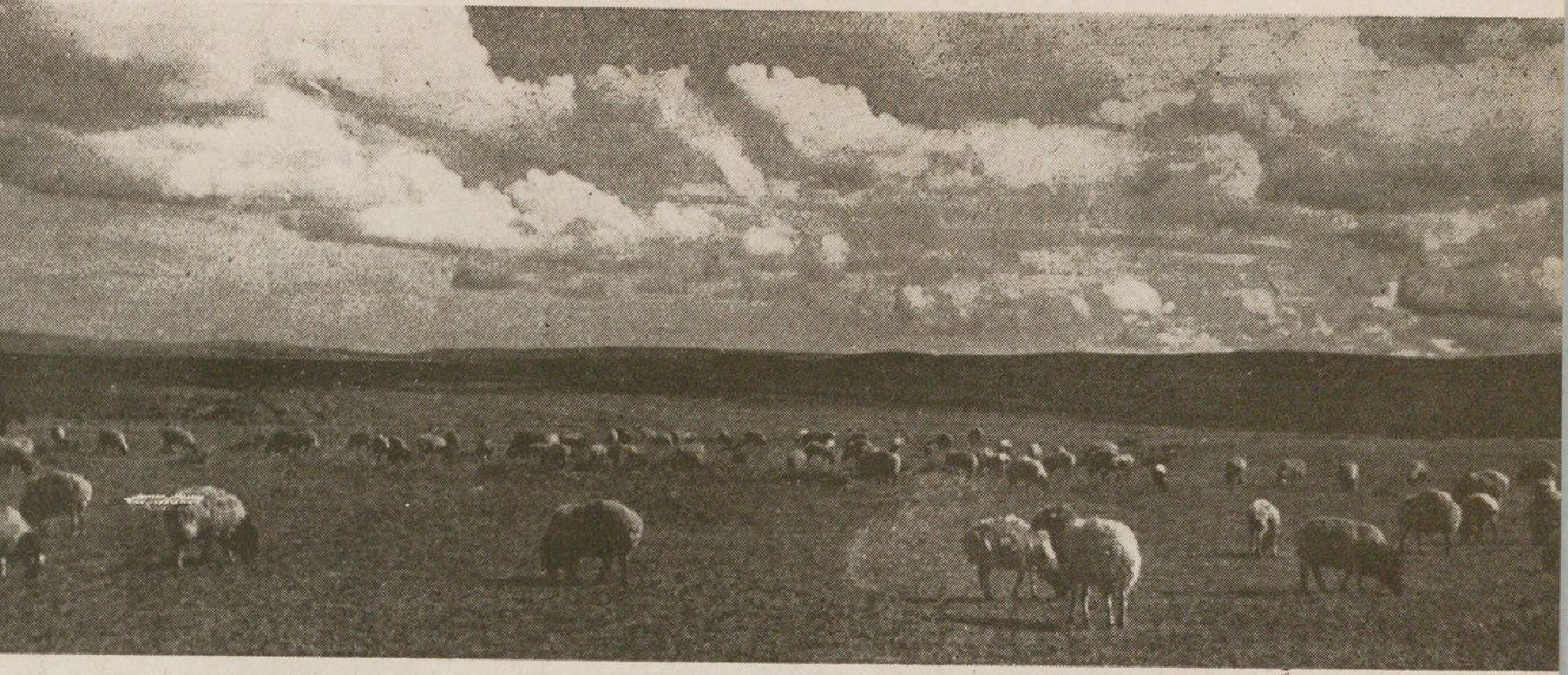
北支

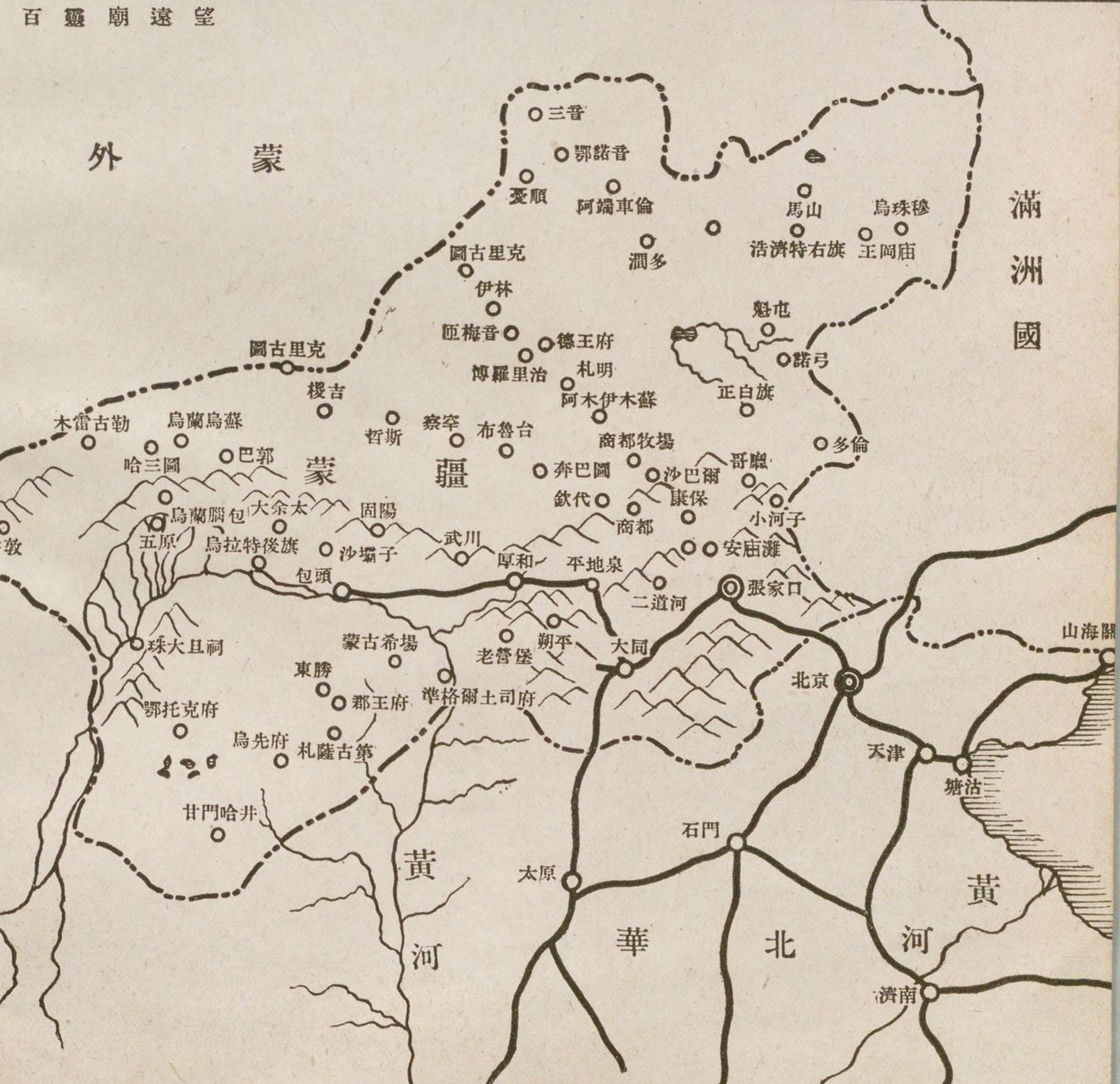
昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十八年六月十五日印刷納本
昭和十八年七月一日發行（毎月一回一日發行）第五十號

現地編輯

7



百靈廟遠望


外蒙
蒙疆
滿洲國
華北
黄河
黄河
張家口
北京
天津
塘沽
山海關
石門
太原
濟南
大同
包頭
厚和
平地泉
二道河
武川
沙埇子
固陽
商都
商都牧場
小河子
安庙灘
多倫
正白旗
德王府
林伊
三音
馬山
王岡庙
蒙古希場
老營堡
朔平
東勝
郡王府
準格爾土司府
札薩古第
烏先府
鄂托克府
甘門哈非
五原
烏拉特後旗
巴郭
哈三圖
烏蘭烏蘇
木雷古勒
圖古里克

蒙疆

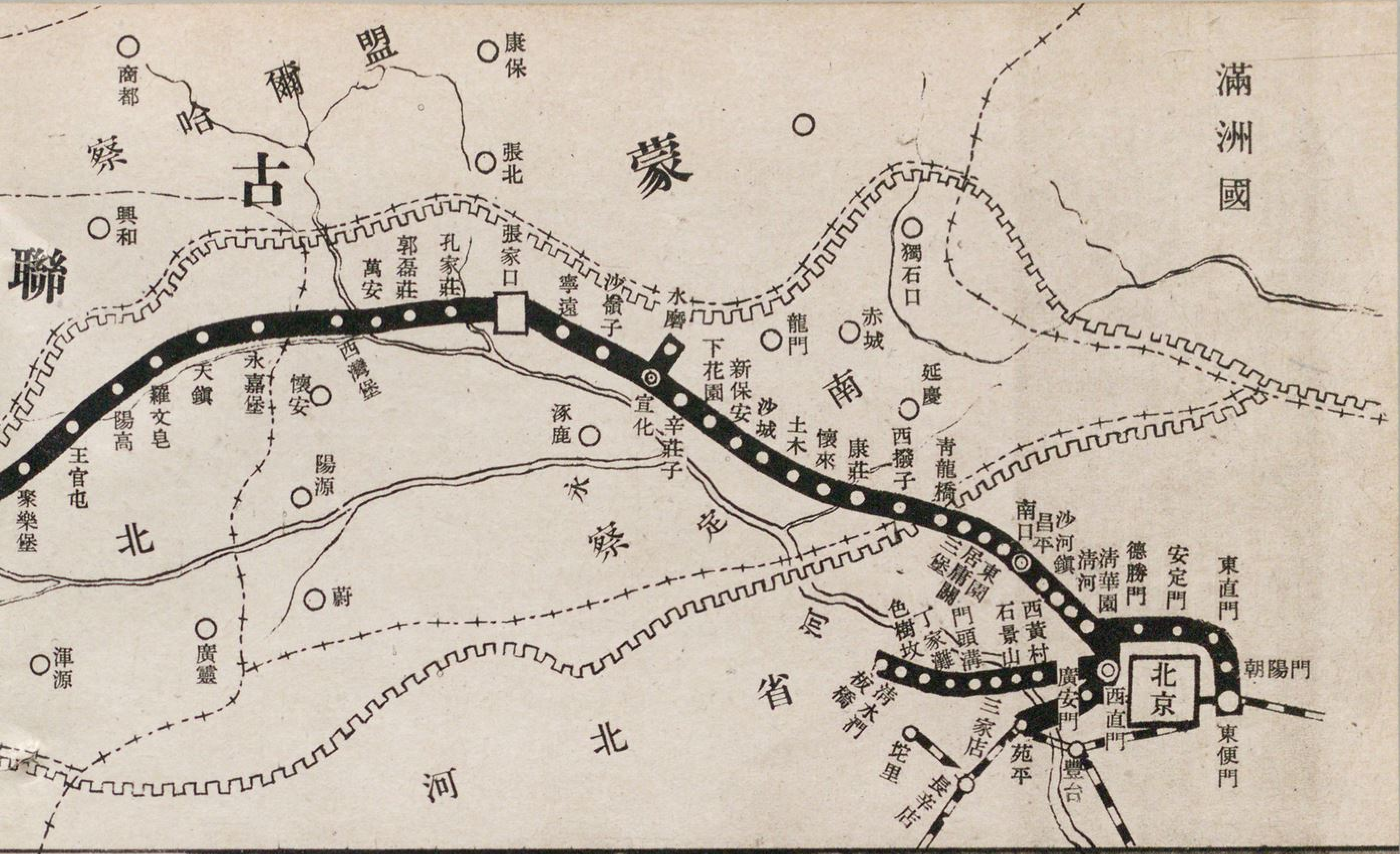
成吉思汗の昔を夢み、漢民族に抗すること數百年、精も根も盡き果てたかに見えた蒙古遊牧の民族が、今次事變、此の地に皇軍の進駐をみるや、好機至れりと、遂に起つて我に協力し、目覺しい活躍をつゞけてきたのである。

昭和十二年末、舊察哈爾・舊綏遠兩省及大同を中心とする長城以北の地に察南、晉北、蒙古聯盟の三自治政府が獨立の氣勢を揚げた。面積約八十萬方キロ、人口蒙・漢・回合して約六百萬、これが從來の民族的摩擦を排除し、一致團結して新たに蒙疆地區を形成し、三者統合機關たる蒙古聯合自治政府の指導の下に、大東亞共榮圏の一翼として、輝かしい前進をすることになつたのである。

蒙疆地區は聖戰完遂の兵站基地であると共に、防共の第一線である。

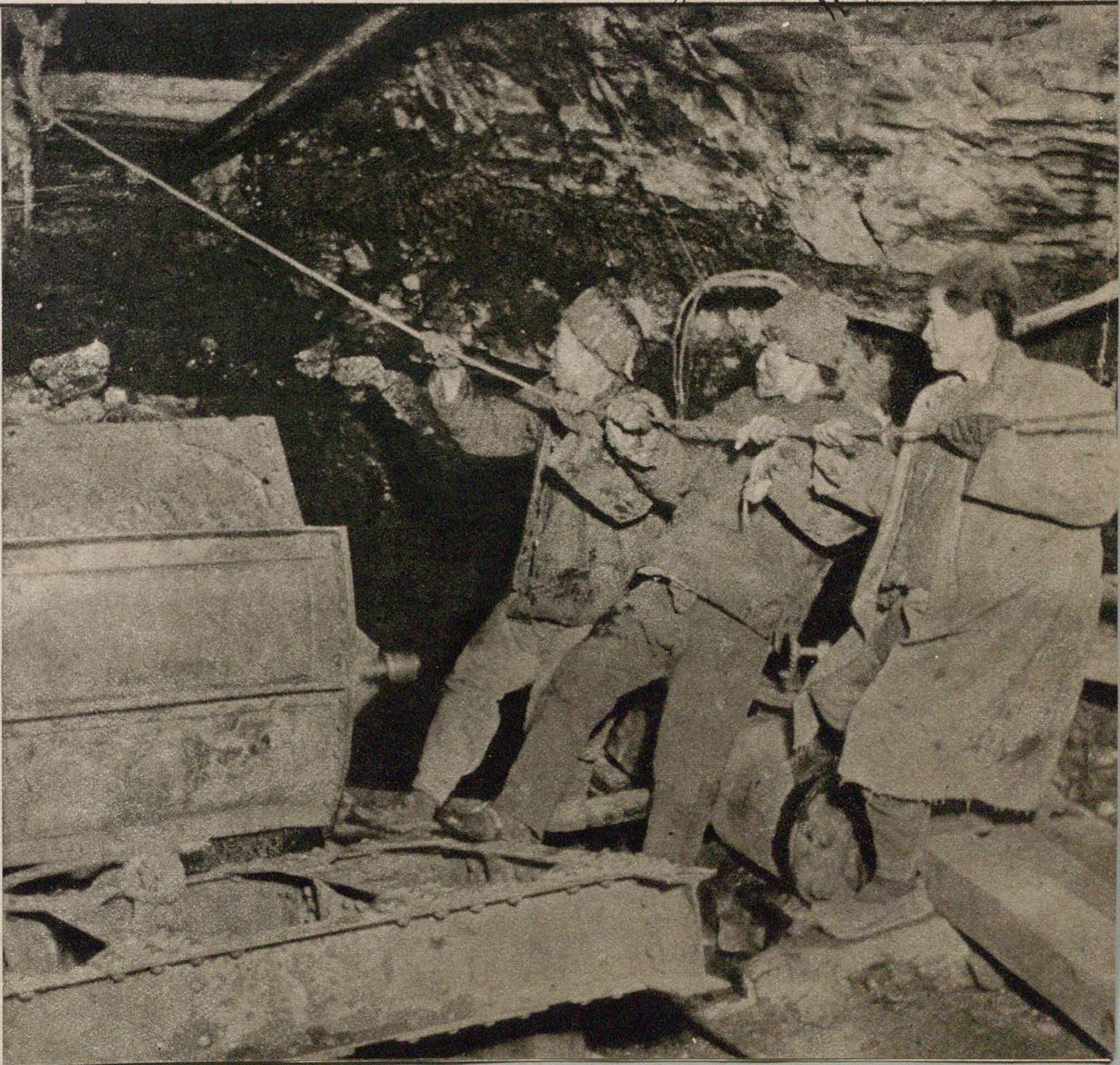
わが適切なる指導援助によつて治安、金融、交通、産業すべての施策は整然と統制され、軌道に乗つて着々と效を奏し目覺ましい發展を遂げつゝある。

オルドス挺身隊の進軍

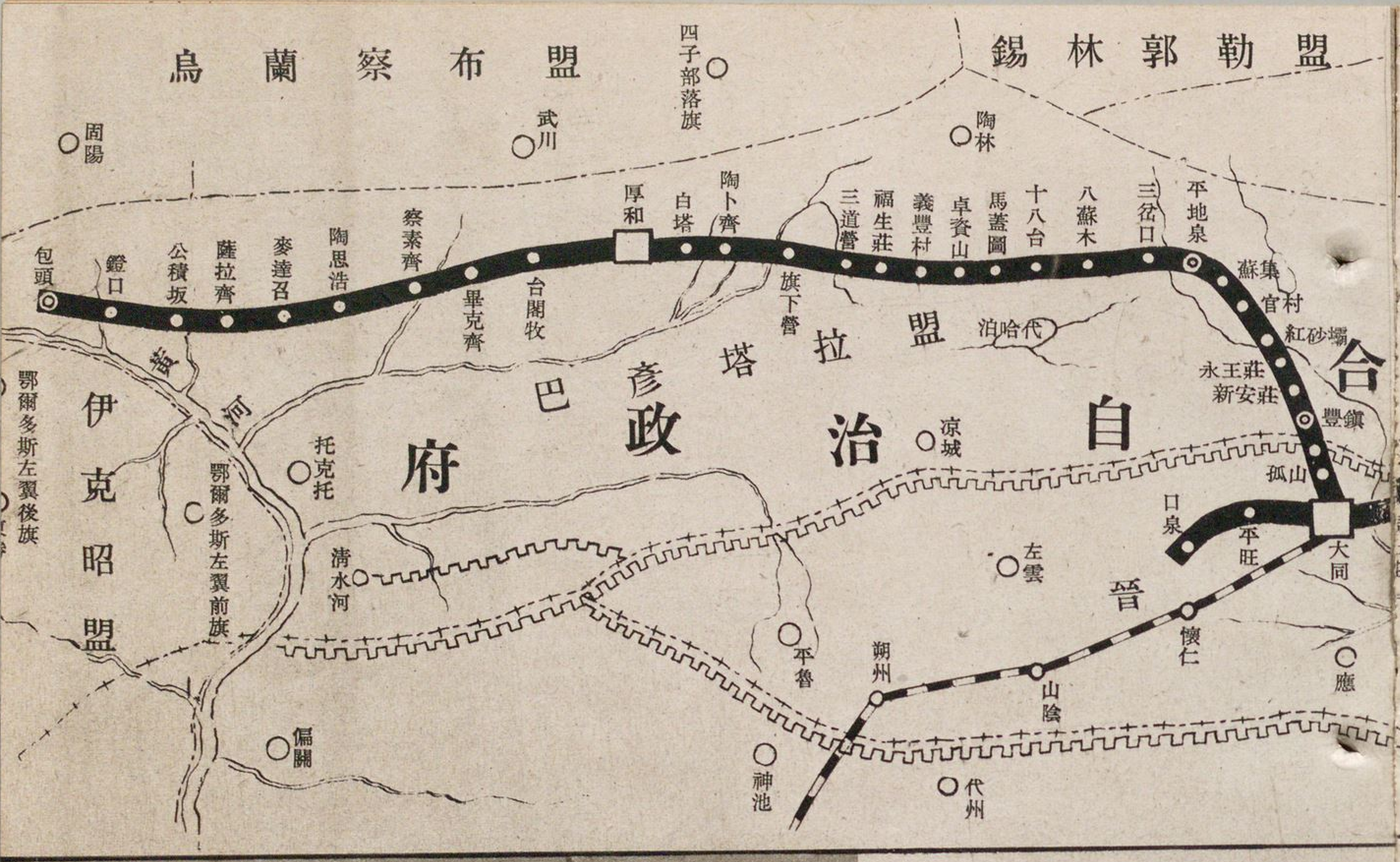


京包線

1



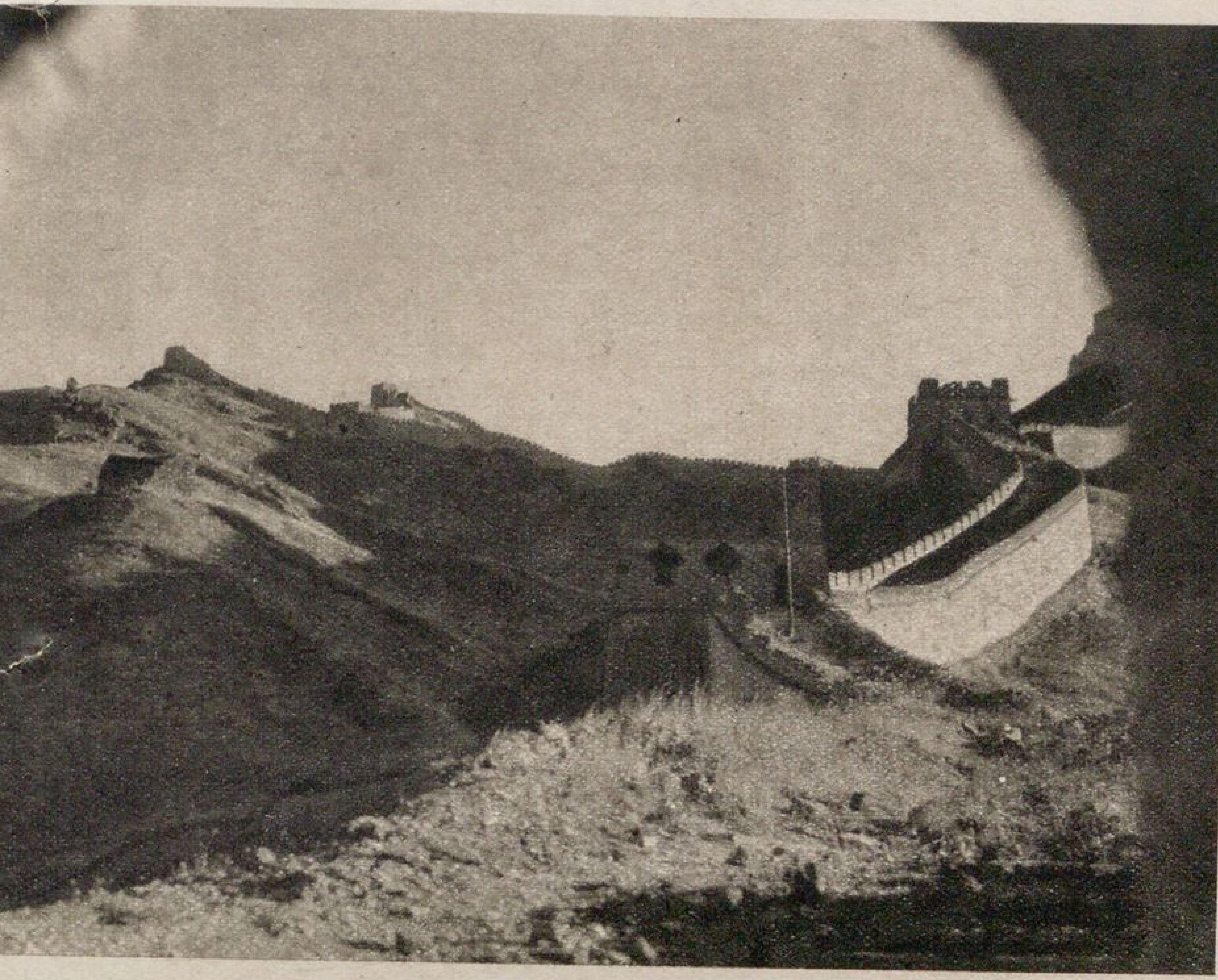
大同炭礦坑內作業



蒙疆の鐵道は京包線及同蒲線を基幹として居る。前者からは大青山支線及龍烟鐵鑛線が伸びて、夫々大青山炭礦と龍烟鐵鑛の開發を目指して居り、後者からは口泉支線が岐れて大同炭礦の運炭に當つてゐる。大同炭は口泉線から同蒲線を經由して大同驛で京包線に接續し、日本及華北各地に運ばれるのである。(口泉線は同蒲線開通前から京包線の支線としてあつた。)こんな點からも判る如く京包線が今日持つて居る主な任務は蒙疆地區が其の主要な誇とする鑛産資源を輸送することにある。今日京包線の營業貨物の九〇%は鐵及び石炭を中心とする鑛産品を以つて占められて居るのである。

京包線はしかし、初めから鑛産品の輸送を目的としたものではなかつた。當初外蒙の庫倫を張家口經由北京に結びつけることにより、蒙古の畜産資源

鐵道建設



大行山脈の峯々を匍ひまはる萬里長城

開發を目的としたのであり、そして此の畜産資源を手中に入れるべく英露兩國は京包線建設の權利獲得を爭つたのである。此の鬪爭の結果は周知の如く中國側の「自國資本による建設と借款の擔保に供せざること」の聲明となりそして事實上は英國資本の援助による京包線の建設着手となつたが、その反面露國の外蒙制壓によつて外蒙・北京連絡鐵道としての意義を喪失したため

京包線は張家口又は厚和より庫倫に伸びるかはりに、包頭に伸びることにより黄河上流舟運に結び付いて西北支那開拓鐵道としての新しい意義を見出すこととなつたのである。羊毛を中心とする西北物資は天津港輸出總額中の三二％（一九三五年）を占めてゐる。此の豐富な西北資源は包頭まで舟又は駝運により、そこからは鐵道により輸送せられる。勿論この羊毛貿易は英國（第

宣化の白くて長い葡萄はカリフォルニヤ産のもの以上だといふ

一次歐洲大戰後は主な仕向地は米國に代つたが取扱商の大半は依然英國商社であつた）資本の支配するところではあつたが、明治末年以後日本及獨逸が强力な競爭者としてこゝに登場して居たことを注意しなければならぬ。

外國資本が進出する場合それは必ず買辦としての中國資本を伴うて居る。英國資本の西北進出につれ、現在の京包線沿線を往來する中國商人の數も增

八達嶺と居庸關

「天下十塞あり、居庸はその一なり」と謂はれた、その居庸關の附近が八達嶺である。字の示す通り、長城線は紺碧の空に强烈な太陽を受けて峯から溪へ縱橫に匍ひまはつてゐる。汽車はその下を溪間を縫つて徐行する。

大境門外の交易場、奥地から物資を運んで來た駱駝の群

宣化

汽車が八達嶺を越えると峨々たる山容は遂に遠のいて茫漠たる一大平野に出る、この平野は海拔一六五〇尺、四方山に圍まれた一大盆地である、その中央に方形七哩の城壁をめぐらした人口三萬の宣化城がある。こゝの葡萄は長さ一寸、南口の柿と共に京包線の名物である。

首都・張家口

北京から一二〇哩、七時間十五分で到着する。蒙古聯合自治政府の所在地であり、事變以來政治・經濟發展の指導的源泉の地として、着々その建設工作は進捗し、新興首都としての面目躍如たるものをみる。

人口二〇萬、内邦人二萬、古來交通上の要衝であり、漢蒙貿易の據點であつた。

新生張家口の一面

京包線 3

獸毛皮の露店市、リス皮、羊皮が最も多く見受けられる

厚和

以前此の地は綏遠と謂つたが、新政權下に入つてから厚和（碧き都を意味する）と改められた。明代には蒙古の王が據つたところで當時の名がすなはち、フヘ・ホタであつた。

さて、この碧き都とは、元來蒙古民族をはじめ、中央アジア民族にはシヤマン教の影響をうけた「人と大空との歸一思想」があつた。從つて碧（青）は蒙古人の最も愛し尊敬する色である。

厚和は三つの地區に分けられる。すなはち驛前に一聚落があり、そこを通りぬけて東方六、七町に新城（綏遠城）があり、西方に舊城（歸化城）がある。

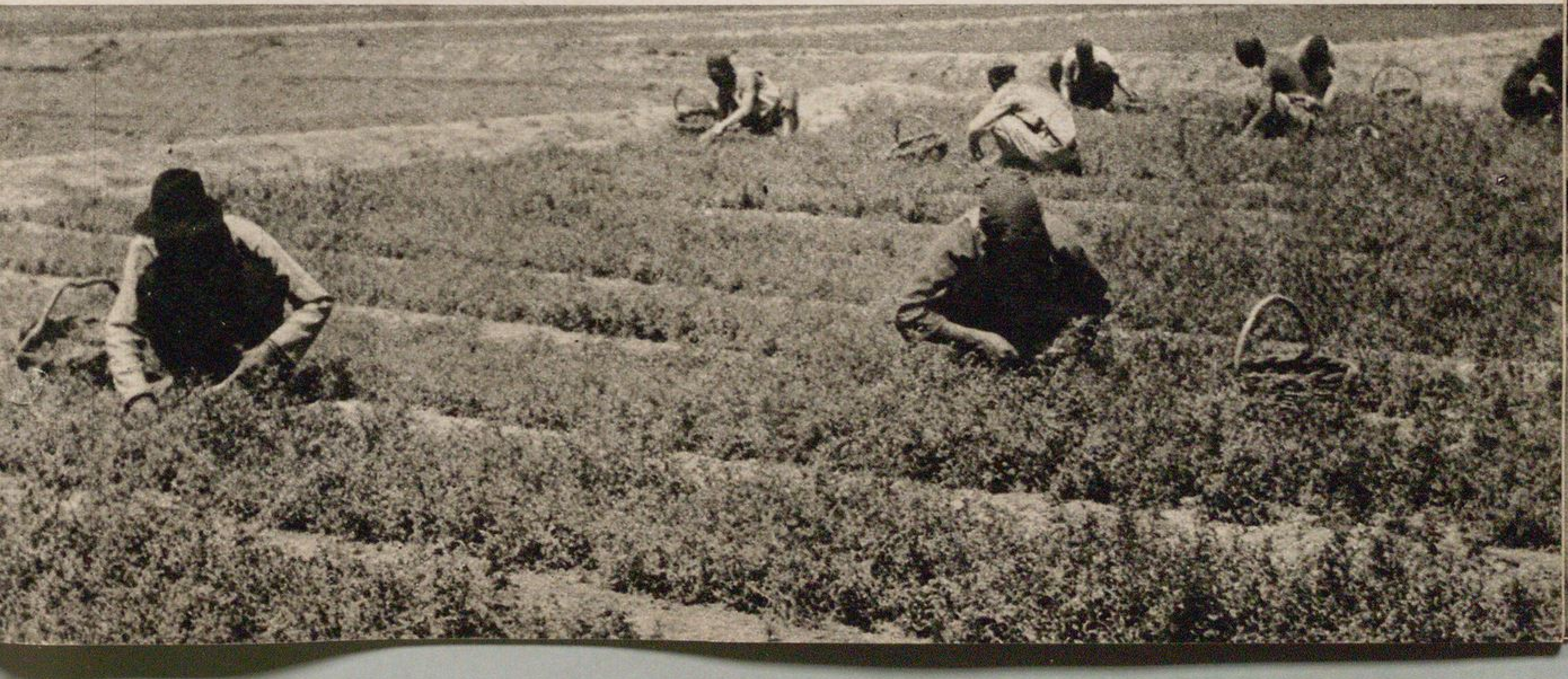
南方の舊城は明代の修築で、名勝古蹟に富み、商店街である。

新城は清代に新たに築かれたもので、各〻周邊七、八町、立派な城壁に圍まれてゐる。官公衙こゝに集り、商店は殆んど見受けられない。

した筈である。（記錄によれば京包線建設に先だつて民間資本で北京・張家口間に鐵道を建設しようと云ふ建議が二回も行はれて居る。）そして此等の商人は京包線建設の進展につれ蒙古地帶の開墾事業に有力に參加した。京津地方は明・清時代から食糧不足の地であり遠く中支からさへ大運河を利用して食糧が移入せられて居た。一方蒙古地帶に於ては增大する蒙古王侯の消費生活は遂に牧地を漢人農民に拂下げて現金收入を得んとするに至り、中國政府もまた邊境防備の必要上從來の蒙古開墾禁止政策を清末以後一擲するに至つたのである。かうした情勢の下に京包線建設は着手せられた。鐵道の開通による輸送費の低減は京津地方への食糧供給地としての蒙疆の位置を高めた。蒙古地帶の開墾は清末以後二回に亘り國家的規模で强行せられて居り、主として商人への包括的土地拂下（當初山西の、民國以後は京津の商人が多く——又若干の洋商も加つて居た）の形態によつて行はれたのである。

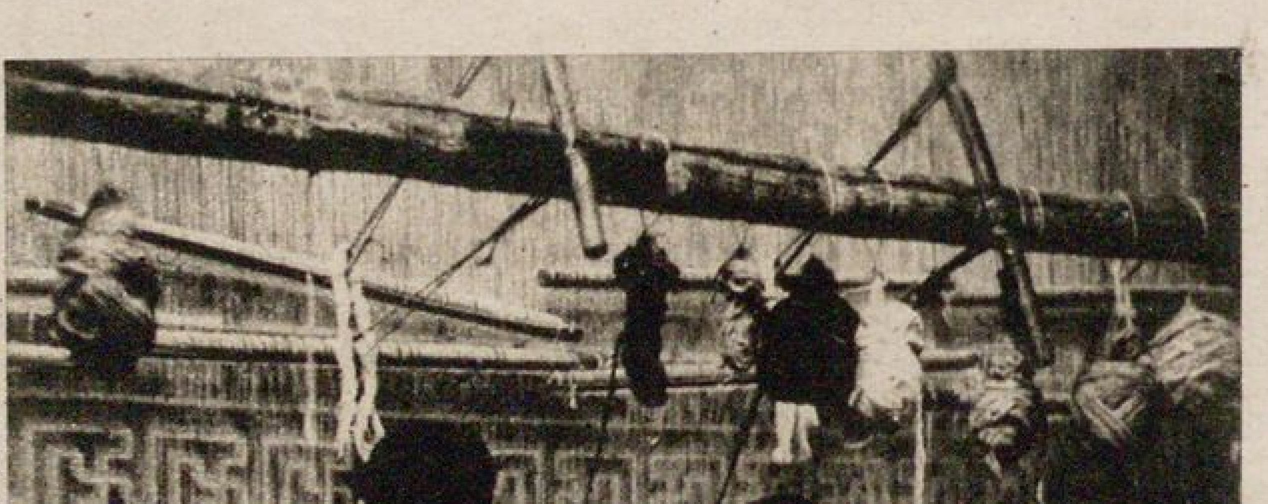
京包線の建設は、資本の不足のため前後十七年の長年月を要したが、その間、たまたま鐵道の終點となつた土地（例へば豐鎭、平地泉、包頭）は、そこが鐵道の終點であると云ふだけの理由で蒙古及西北貿易の中繼地となると共に、周邊新開墾地農產物の集散市場として極めて短期間に目醒しい發展を遂げた。一方鐵道線路より外れ、または中間驛となつた從來の駝運中繼地は京包線の開通によりその繁榮を一朝に

華北交通苗圃



厚和歸化城（舊城）鼓樓南街

邦人指導による毛織工場


手工業的な絨氈の製作

包頭市街遠望

駱駝毛の積荷

包頭近郊の曹達の產地——ボツボツと小山をなせるはかき集められた曹達

黄河河畔の造船場、扁平で船脚が淺いのが黄河に使はれる船の特色である

京包線 4

して奪はれ、また折角發展した終點驛も、鐵道が更に奥地に進むに伴ひ、昔日の面影を失つて行つたのである。

事變は京包線の性格を一變した。現在の京包線は全く運鑛鐵道としての意義に生きて居るものの如くである。今日蒙疆に課せられて居る最大の使命が地下資源の開發である如く京包線の使命もまた地下資源の輸送にある。しかも開發工作の進展に伴ふインフレーシヨンと價格鋏狀差の進展は輸送貨物中に於ける原始產業製品の比重を愈〻低下せしめつゝある。だが、戰時下に於ける食糧問題の重大性は、嘗つて北京市場の雜穀の九〇％を供給して居た京包線の再認識を要求する。沿線農業の再建、蒙古及西北の畜產資源の確保、地下資源の開發——この三つの政治的課題を中心に今後の京包線の性格は規定せられて行くことであらう。

包頭

京包線の終點であり、黄河中流に據するところである。周圍三邦里の城壁に圍まれた戸數一萬三千、人口八萬の小都市であるが、嘗ては西北貿易の中繼地として繁榮を極めた所である。邊陬の小都市にもかゝはらず豪奢な商店や遊廓などが現存してゐるのは當時の名殘りであらう。

南海子は包頭の附屬港である。寧夏下りの艀舟はすべて此の港に著いて、貨物を陸揚し、そして鐵道で京津地方へ送るのである。

らくだ

中央アジア、シベリヤ、蒙古一帶にわたつて、昔から「蒙古路」といふ駱駝の隊商の通路があつた、彼等は奥地から獸毛皮や寶石類を積んで來て、工藝品や絹布類を持ち歸つたのである。

京包鐵道開通以後、駱駝の通路もその區間だけは退廢したが、まだまだ殘された大陸は廣大であり、駱駝の輸送機關としての役割は重要である。

隊商の組織は普通二〇頭を以て一連と謂ひ、二連を以て一把、五把で一項房と謂ふ。彼等は決して單獨自由の行動はとらない。一人の駝夫は約一〇—一二〇頭の駱駝を受けもち、歩行する場合は整然と一列縱隊をつくる。これを駝隊と謂ふ。休止に入る場合にも、嚴格な順序に從つて環形或は數列に並び、坐つて休む。これを駝陣といふ。

駝隊の先頭の一頭を頭駝或は拉頭駝と呼び、これに乘る駝夫は隊の總指揮者として絕對權限を有し、他の者はこれに信賴し、服從する。最後尾の駱駝は擺鈴と稱する鈴を首に吊げて居り、落伍者が生じても最後の駱駝が停止し鈴の音が止むのでわかる。

駱駝の足は牛や鹿と違つて、蹄の下に大きな胼胝のやうな彈性褥があるために沙漠の步行に最も適してゐる。更に胃の構造が牛のやうに反芻作用をな

し、背部の皮下組織中に脂肪性の大きな瘤状突起を持つてゐるために、重い荷を背に三日や四日くらゐ飲まず食はずに歩いても平氣である。

性また極めて柔順である。

駱駝は寒氣には非常に強いが、暑熱には弱いので、隊商は晝間は放牧して夜間行動するのが常である。

休　止（珍らしい白いらくだ）

起ちあがる蒙古

1

蒙古民族は覺醒し、希望を燃して起つた。
新生蒙疆は、もはや昔の中國の一邊境たる綏遠省でもなければ、察哈爾省でもない。
いまや、德王を仰いで一絲亂れぬ統制の下に、大東亞共榮圏の一翼を擔つて活躍する青年たちの逞しい姿こそ、明日の蒙疆を表象するものであらう。

德王の閲兵

オルドス沙漠地方を巡察する挺身隊

蒙古騎馬隊の閲兵

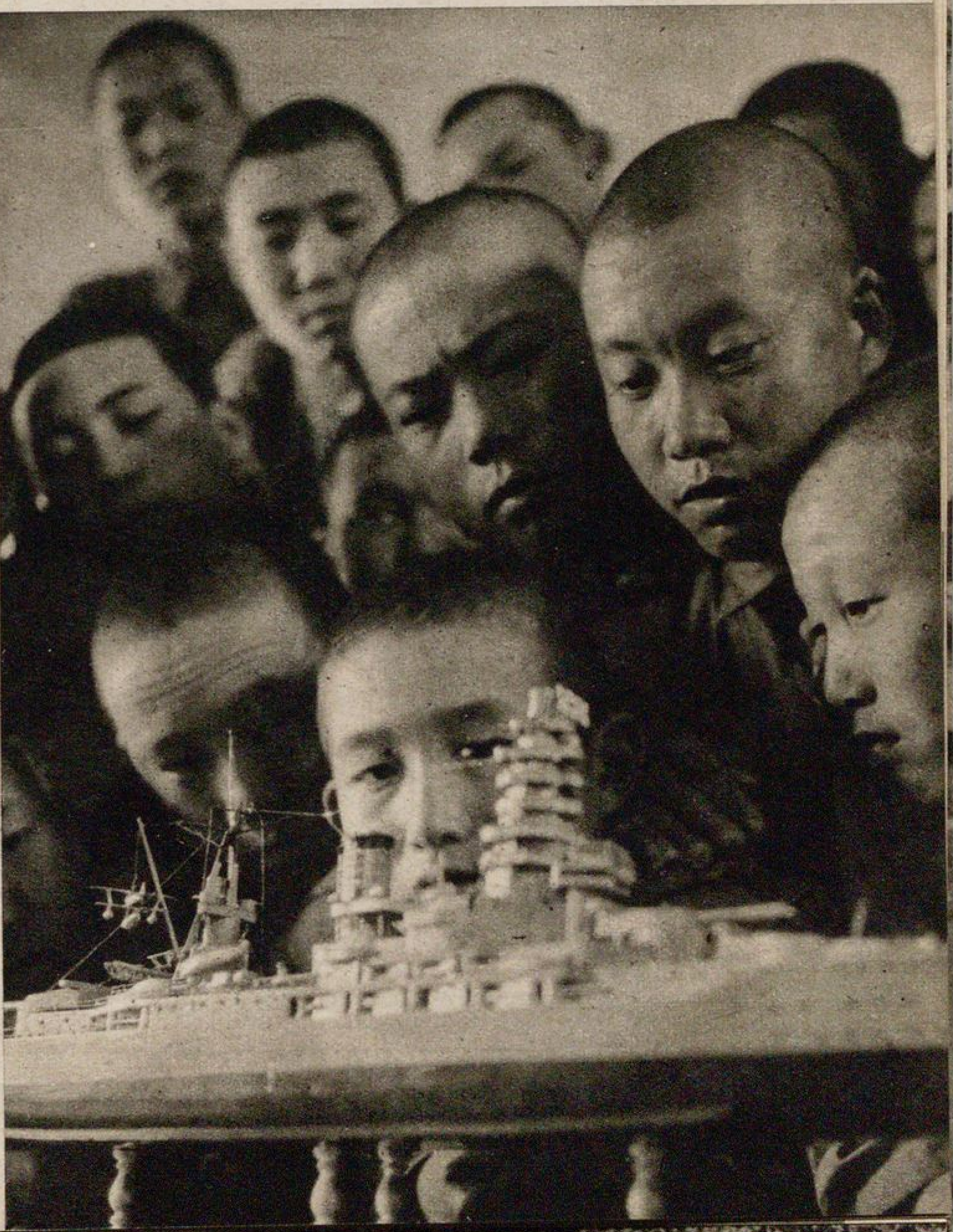
邦人指導官によつて魂が打ち込まれてゆく、蒙古の青年は近頃面構へまで日本人に似てきた

演習即實戰である、馬占山と常に接觸してゐるのだから

自覺した者の爽快な氣合ひ（中學生）

日本精神を學びとらんとするその眞劍な姿勢を見よ（中學生）

日本語の時間



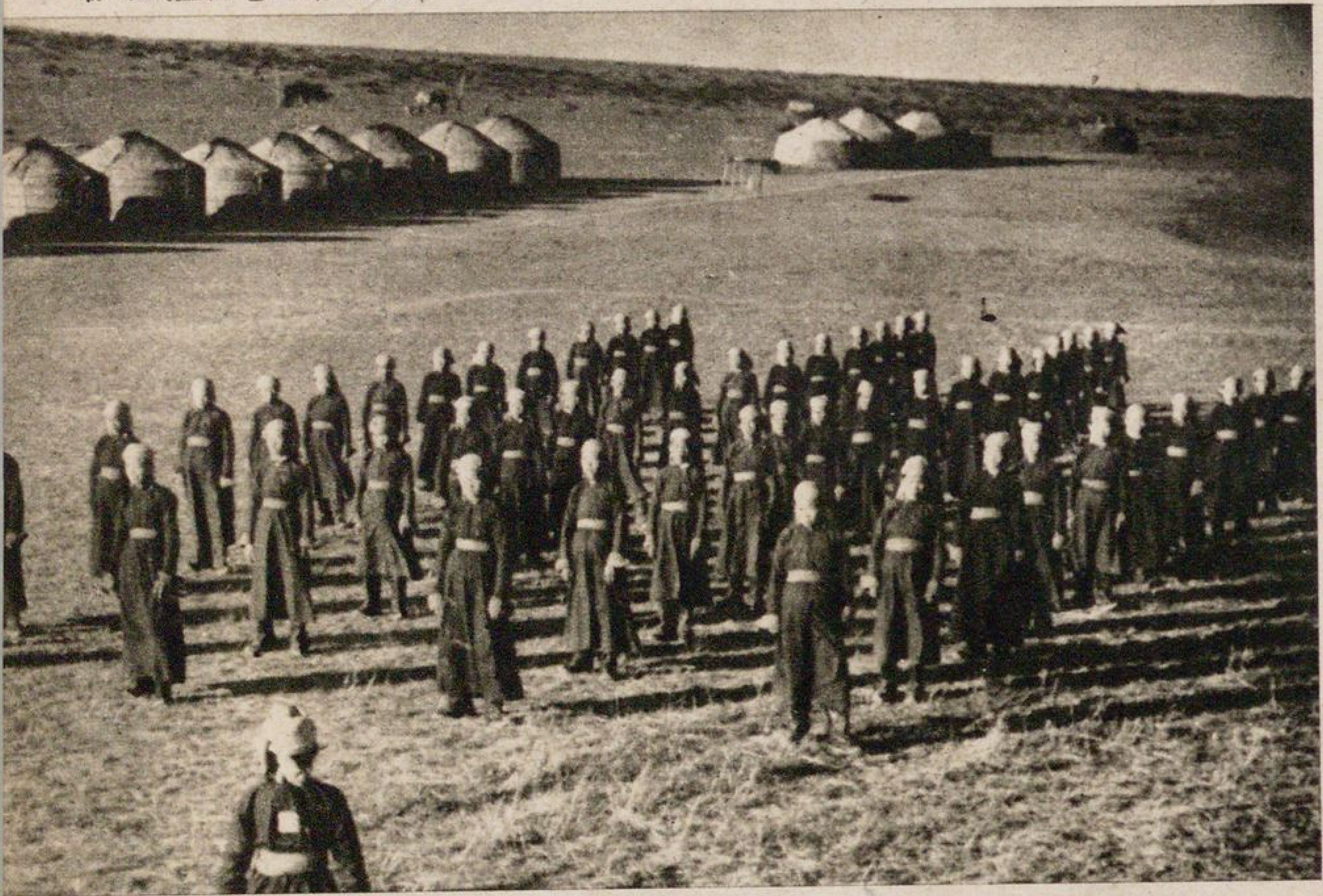
日本海軍の强さをよく知つてゐる彼等、軍艦といふ不思議なものに一度乘つてみたいことであらう（小學生）

起ちあがる蒙古

2

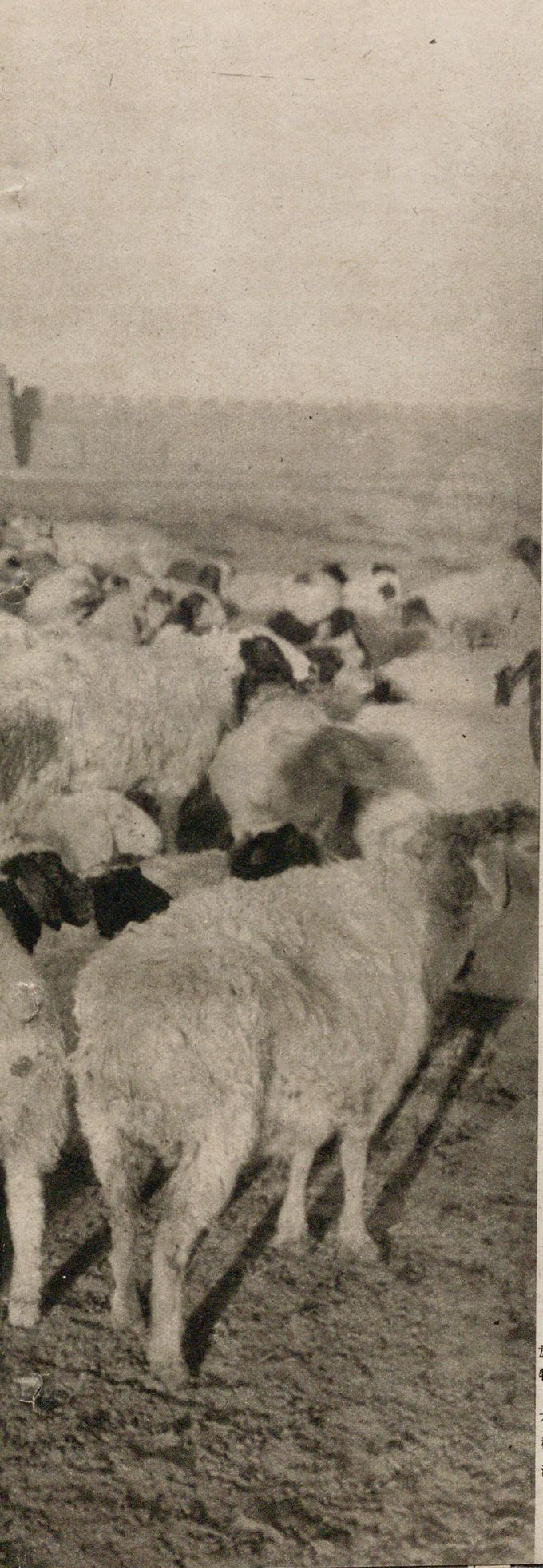
搾乳のお稽古（女學校）

朝の國民體操、包の校舎が見える



手藝のお稽古

蒙疆政府の教育方針に
「政府施政綱領ノ本旨ニ基キ我政權ノ理想ト特質ヲ認識セシメ東亞新秩序建設ノ爲メ忠誠奉公ヲ挺ンデル德性ヲ陶冶シ民生向上ニ必要ナル知識技能ヲ錬成スルト共ニ心身ヲ鍛錬シ强健ナル國民ヲ養成スルヲ以テ教育ノ方針トス」とある。教育する者、される者、民族再建の希望に充ちてゐる。



放牧、大樹灣

西北支那

オルドス 1

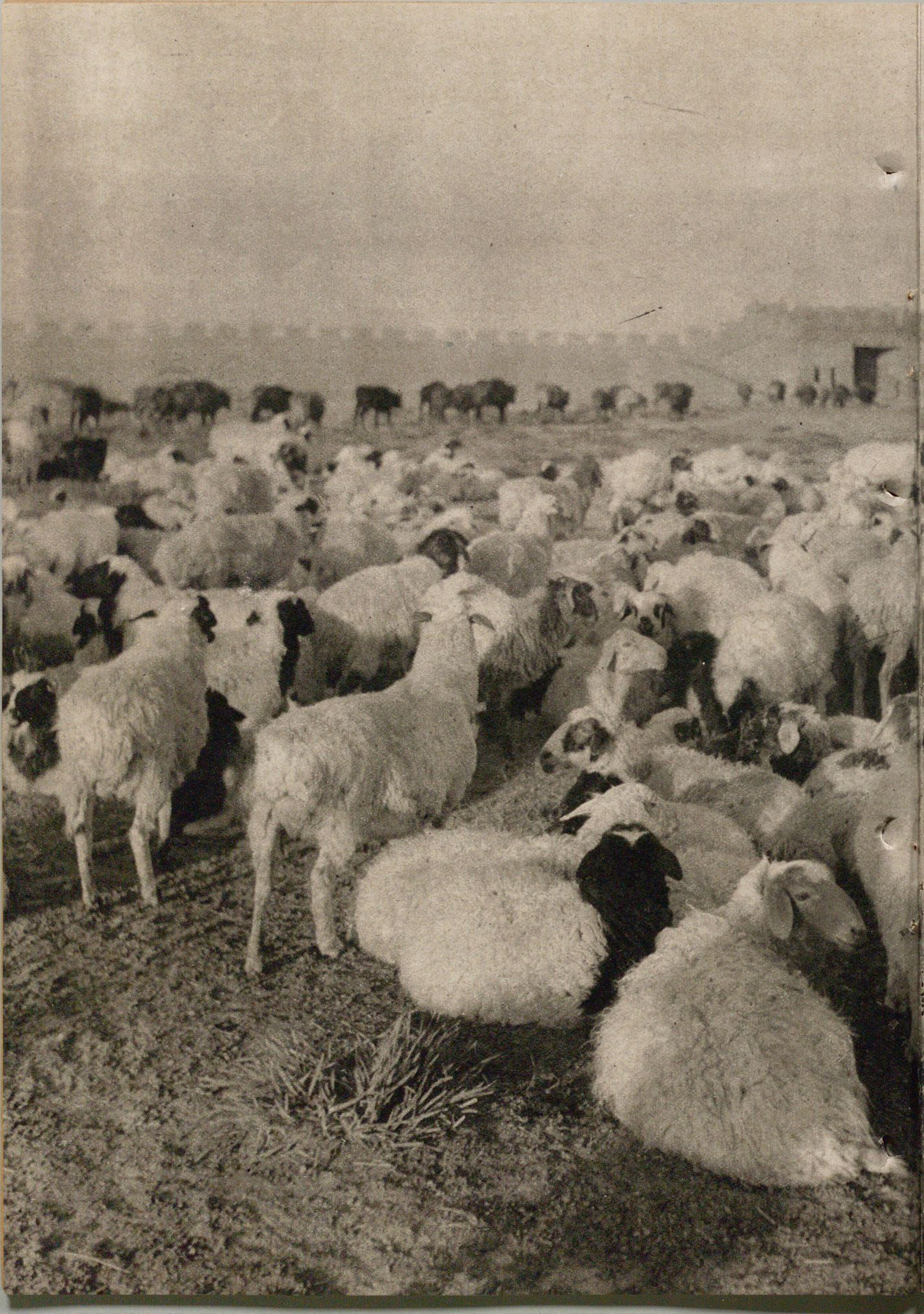
古來この地方は北方民族と南方民族によつて爭奪の繰返へされたところである。秦の始皇帝が蒙恬をして匈奴を討たしめ、防禦策に屯田兵を置いたのは此の地である。成吉思汗は寧夏討伐の陣中に歿し、此の地イヂンホロにその墓があるといふ。明朝時代にはオルドスに據つた蒙古族の反亂に惱み、その南方に今日見る如き堅固な長城を修築完成した。元の滅亡後、大汗十六世の孫達延汗は此の地を根據として元の復興を圖り、一族を配して七旗を置いた。これがオルドス七旗（伊克昭盟）の起りである。オルドは「宮殿」、スは複數、即ち親衞隊を意味するといふ。

民國二十三年、百靈廟に雲王を首班とする蒙古自治政務委員會が成立するや伊克昭盟盟長沙王は副委員長に任命され百靈廟蒙政會の勢力下に入つた。

事變後は日蒙軍包頭に入城し、厚和に自治政府の成立を見るや、同年十一月イヂンホロの聖地に王公會議を開いて決議文を德王に提出した。

オルドスの面積は我が北海道と廣島を合したものに等しく、人口三十六萬（內蒙古人十萬）、西方は賀蘭山、西北方はハラ・ナリン・ウラ、北方は陰山山脈に屬する狼山及び烏拉山・大青山に圍まれた地域である。東部は黃河屈曲部の東腕、南部は高原緣邊を走る萬里長城を境とし、南方には深峽溪谷が連つて、鳥も通はぬこれら千仭の溪谷

オルドス大樹灣移墾部落の娘達



オルドス　2

には秦嶺山脈の六盤山塊が雲上高く聳えてゐる。

オルドスは灌漑地と然らざる部分とでは全く面目を異にし、灌漑施設のない處は純然たる沙漠である。

東部草原地方は黄河の支流流域に屬し、起伏多く、西部に較ぶれば濕度が高い。從つて牧草の成長も良い、七旗中の過半（準噶爾（ジュンガル）・郡王・札薩克・烏審）はこの東部草地を牧地としてゐる。

しかし此の地方の大部分は漢人の侵入を蒙つてゐるのであつて、漢人は土地が農地に適しさへすれば遠慮なくこれを蒙人より奪ひ、段々增加の趨勢にある。

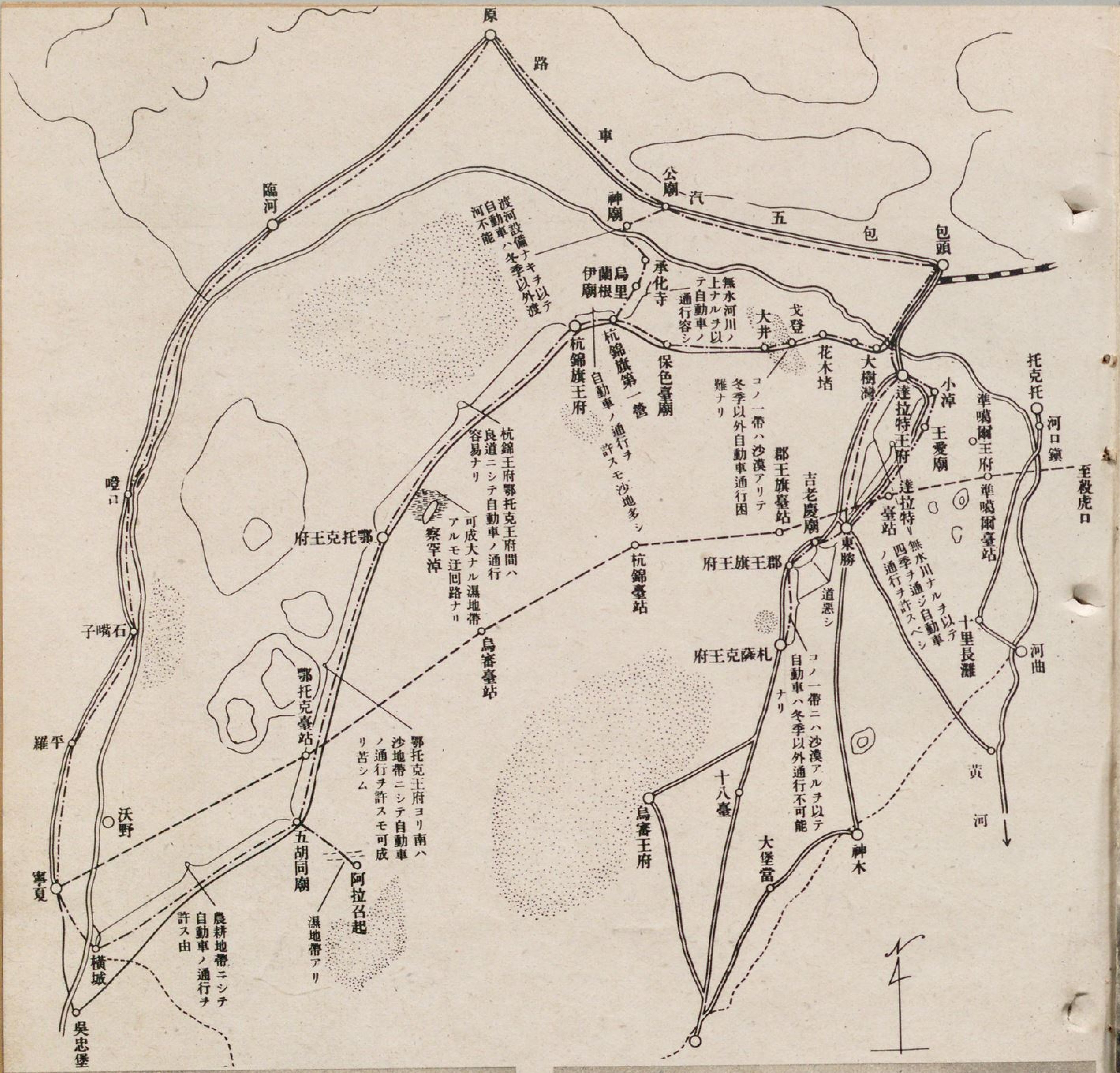
西部沙漠地方は東部に比較して地味不毛なので沙漠と呼ばれてゐる。此の地方は高度高く乾燥度も大である。北部には黄河直南にクグブチ沙漠があり、幅員一五哩―三〇哩の沙漠地帶を

蒙古人移墾部落

大樹灣　1

伊克昭盟公署では、馬占山の被害を蒙つた蒙古人難民を大樹灣に收容して彼等に農耕の法を授け、自立自衞の定着農耕生活の訓練を施してゐる。元來遊牧の民である彼等は怠けることが好きて、依賴心が强く指導官をして幾度かさじを投げさせたものであるが、若き邦人指導官の熱誠は眠れる蒙古人の心を覺まし、はじめの年の開墾作付十二町步に過ぎなかつたものが、十七年度には四十八町步の作付に成功した。

大樹灣の部落


原
包五汽車路
臨河
公廟
神廟
包頭
渡河設備ナキヲ以テ自動車ハ冬季以外渡河不能
承化寺
烏蘭伊里根廟
無水河川ノ上ナルヲ以テ自動車ノ通行容シ
大井
戈登
花木堵
大樹灣
杭錦旗王府
杭錦旗第一營
保色臺廟
自動車ノ通行ヲ許スモ沙地多シ
コノ一帯ハ沙漠アリテ冬季以外自動車通行困難ナリ
達拉特王府
小淖
王愛廟
托克托
河口鎮
準噶爾王府
準噶爾臺站
至殺虎口
達拉特臺站
郡王旗臺站
吉老慶廟
東勝
郡王旗王府
無水川ナルヲ以テ四季ヲ通ジ自動車ノ通行ヲ許スベシ
道悪シ
杭錦臺站
十里長灘
河曲
札薩克王府
コノ一帯ニハ沙漠アルヲ以テ自動車ハ冬季以外通行不可能ナリ
黄河
十八臺
烏審王府
大堡當
神木
磴口
杭錦王府鄂托克王府間ハ良道ニシテ自動車ノ通行容易ナリ
鄂托克王府
察罕淖
可成大ナル濕地帯アルモ迂回路ナリ
石嘴子
烏審臺站
鄂托克臺站
鄂托克王府ヨリ南ハ沙地帯ニシテ自動車ノ通行ヲ許スモ可成リ苦シム
平羅
沃野
寧夏
五胡同廟
阿拉召起
濕地帯アリ
農耕地帯ニシテ自動車ノ通行ヲ許ス由
橫城
吳忠堡
N

耕す蒙古娘

オルドス 3

牛糞を乾燥して燃料（アルガリ）をつくる

なし、西方は阿拉善沙漠に通じ、叢藪も極めて稀である。緣邊のオアシスには多少の家畜も見られ、一帶に低い砂丘が連つてゐる。

箕盤山の東方、杭錦、鄂托克旗民の徘徊する地方は小規模乍ら喇嘛廟も多少あり、羊、山羊、牛、駱駝、驢、馬もかなり見受けられる。

高原地方は最も人口稀薄で、石で圍んだ井戸の傍らが僅かに家畜を逐ふ蒙人の集合するところである。この地域は南部及び東部から漢人農民との生存競爭に敗れて落ちのびて來た蒙人が放牧するところである。

有名な後套平原とは黄河北岸オルドス高原北方の地域を指すものである。粘土質の肥沃な流域平原であつて、包頭から舊黄河河床に及び、幅二〇哩乃至四〇哩、これに續いてかなり西方にまで展開し、東西の全長二〇〇哩を越える。こゝは元來蒙古人の地であつたが全域人口が稀薄なので漢人農民が占據してしまつてゐる。

伊克昭盟（イクチヤオメイ）内に於ける農業は古くから發達し、盟の東部及び東南部は殆んど漢人の農耕地と化し、後套地方は蒙古の穀倉と云はれてゐる。故に蒙古人の農業に從事する者も相當多く、準噶爾の蒙古人は殆ど農業に從事してゐる。

將來これら蒙農を指導して發達向上せしむることが目下重要なる研究題目となつてゐる。

資源は石炭をはじめ、アンチモニー金、銀、銅等を相當量埋藏し其他湖鹽、天然曹達、藥草類を產するがまだ極く幼稚な採取方法に過ぎない。

糜子をひく（共同脫穀場にて）

政府から與へた改良種の豚

大樹灣 2

陰山の裾にうづくまる包頭と黄河を隔てゝ正面に對するところ、草原を壓して聳立する灰色の城廓が達拉特旗公署の所在地大樹灣である。延長二粁、四角な城壁は二丈に近い。その中に黎明蒙古の一つの雛形がある。

一棟六戸の長屋で一つの班をつくり、三棟一列の十八戸で排を編成し、中に道路をはさんでその左が第一蘇木（そむ）、それが四排をなし、右側が第二蘇木六排といふ編成をもつて、それぞれに班長、排長、蘇木長がある。

中央十字路には煉瓦造の旗公署、小學校、保安隊の建物がある。一應診療の施設もある。

白泥の採集、壁土に使ふもの

採集した甘草の整理、その用途は、緩和劑、鎭咳劑、仁丹、ソース、醬油、クリニツチ酸、卷煙草の味付、糖菓子、線香等

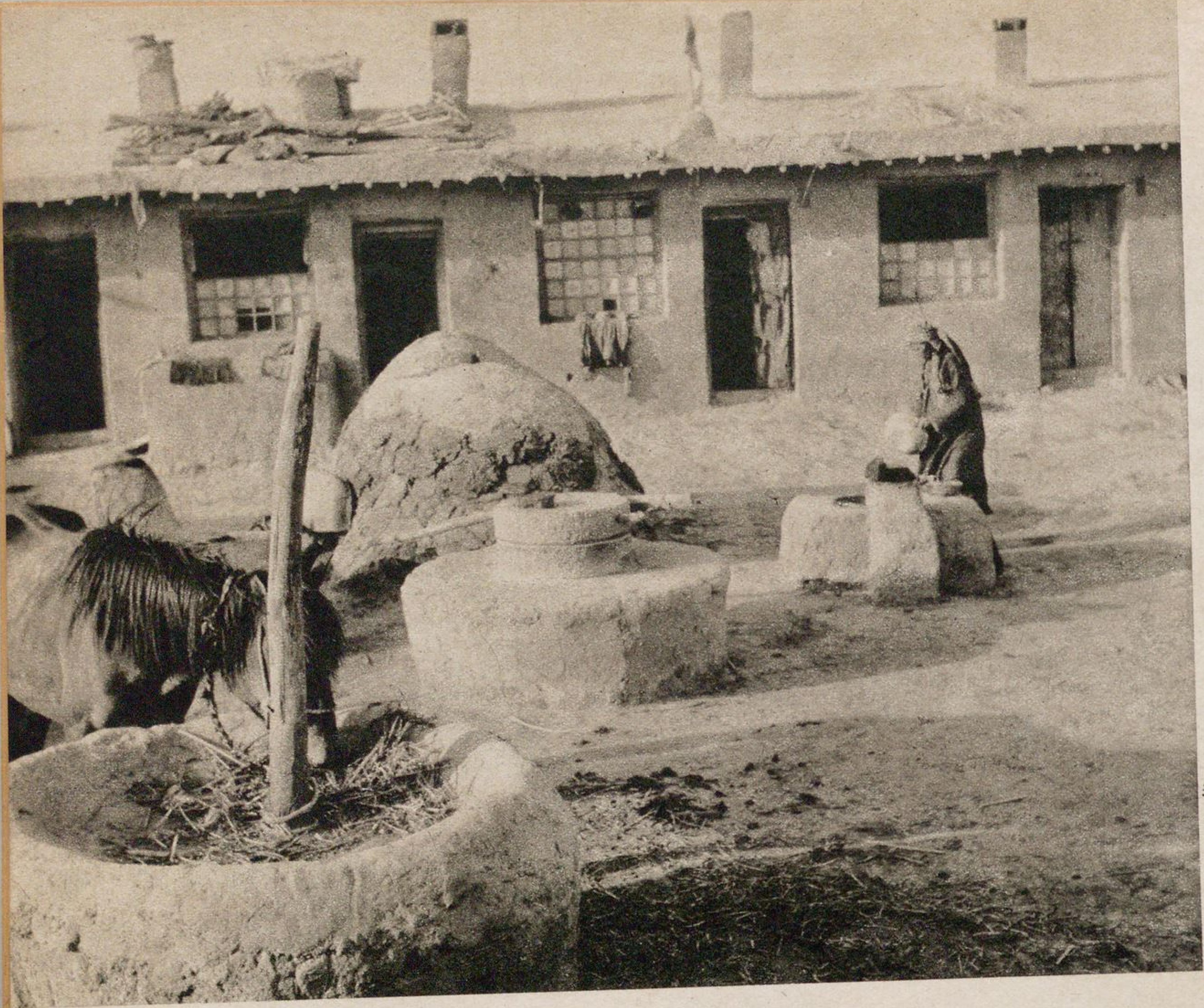
包の生活から固定した住居へ

オルドス　4

炊事する蒙古婦人

大樹灣　3

最初は敵側のデマに禍されて、移墾希望者も少かつたが、新政權では家も建ててやり、農具、家畜まで與へて大いに成果の擧つたことがオルドス七旗に傳播し大きな反響を呼び起し、はじめは二百人に滿たなかつた部落民が今日ではすでに一千に達し、漢農も部落を中心に敵地區から復歸する者すでに五千に上り、これが敵陣にとつては大きな打擊となり將兵の投降者が續出するに至つた。これはまさに黃河南岸に打ち込んだ和平攻勢の大きな楔である。


班の住居と庭

食事の楽しいひととき

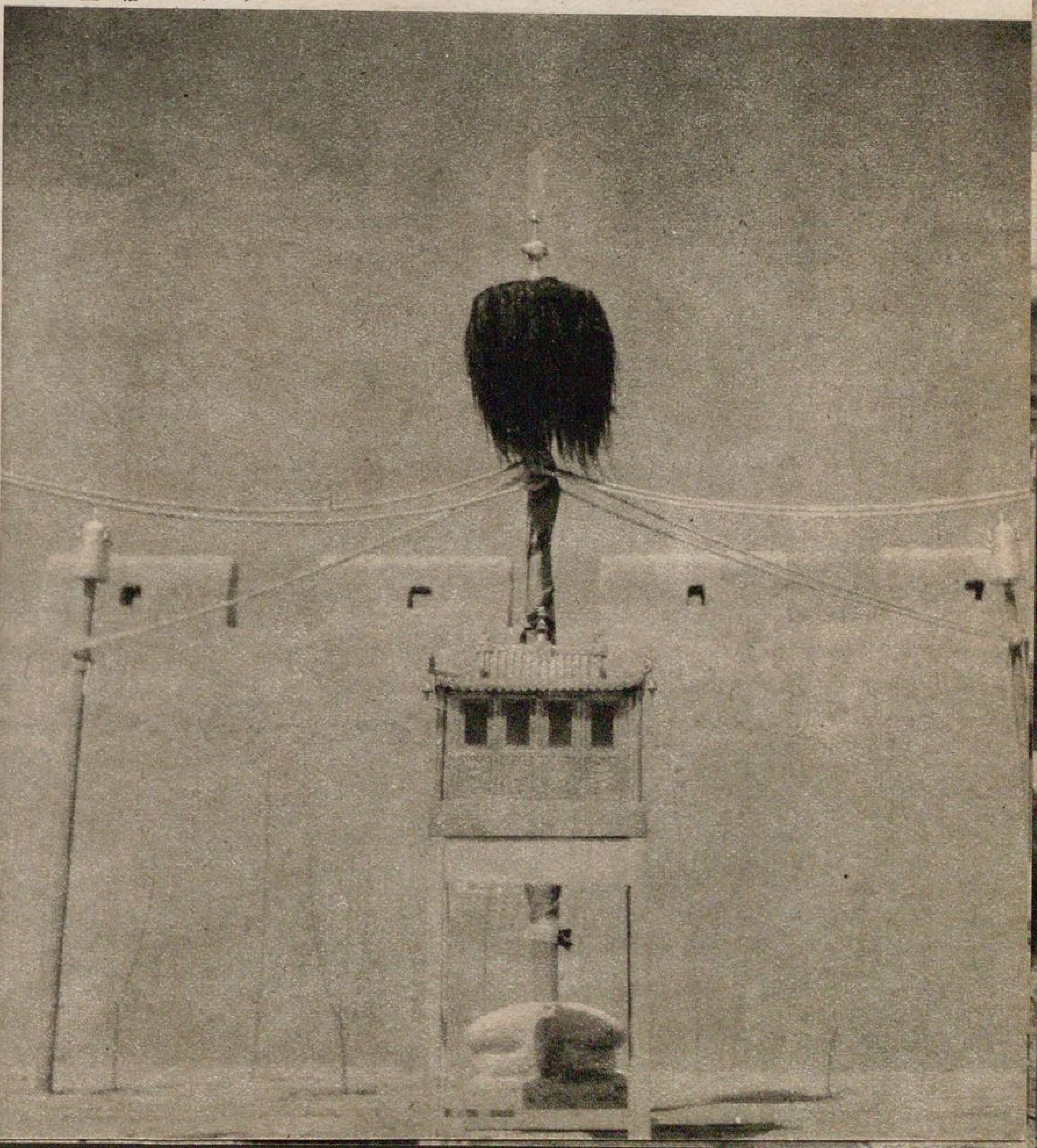
オルドス 5

スルタ祭

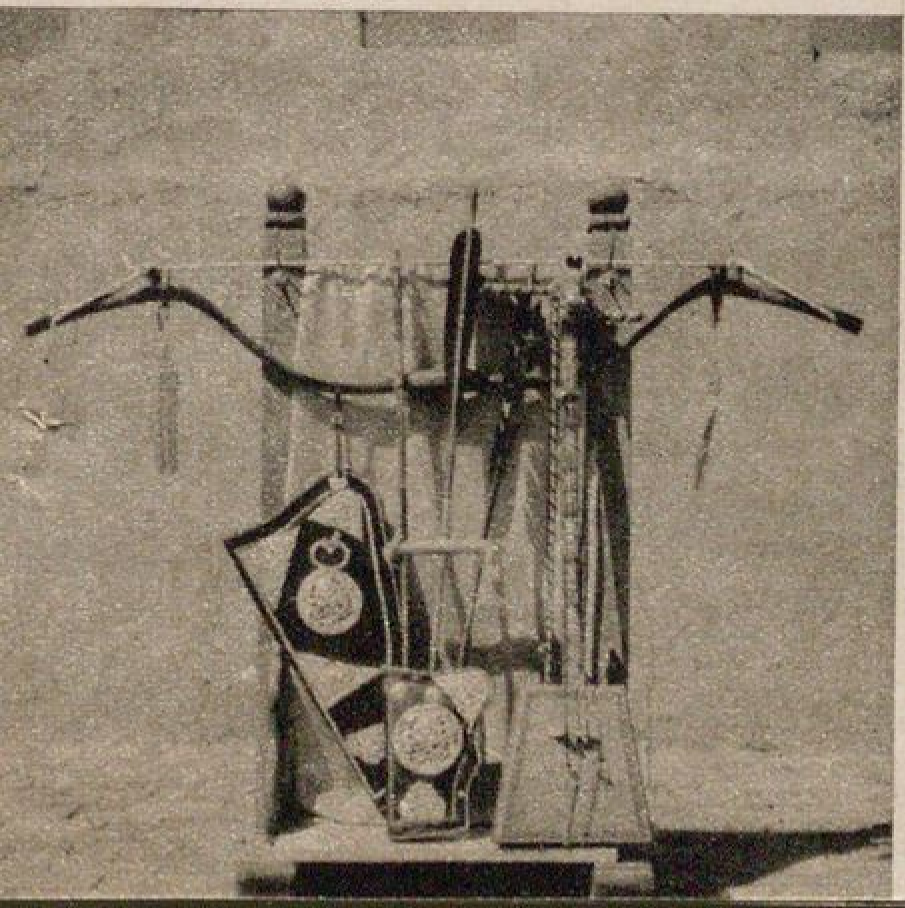
スルタ祭と成吉思汗の遺物

成吉思汗はまだ蒙古民族の魂の中に生きてゐる。大汗の聖地オルドスのイヂンホロでは舊暦七月十四日スルタの祭を盛大に擧行する。それは天帝が大汗に靈槍スルタを授け給うたことに感謝するお祭である。

スルタの由來、祭典に關しては後部讀物頁に詳記した、參照せられたし。



靈槍スルタ



大汗愛用の遺物

京包線

星田信隆

京包線とは、北京包頭間約八一三粁の鐵道で、この中、東園・包頭間約七五六粁は謂ゆる蒙疆地區にある。

華北平野より眺めた蒙疆は、恰も山また山の山岳地帶の觀があるが、長城線を圍む連山は滿洲華北の海岸線に連なる平野より、二階に登る階段であつて、この二階は滿洲國の赤峰附近より張家口、大同、厚和、包頭と、京包線地帶を過ぎ、オルドス、アラシャン兩沙漠を經て、青海に及ぶ廣大な面積を占めてゐる。同樣に南口パスを登りきつた京包線は、陰山山脈の山脚を縫つてゐる觀があるが、謂ゆる陰山山脈も實はこの二階より三階に登る階段であつて、この三階は滿蒙國境のドロン附近より陰山山脈の北側を遙かに西方に延び、その北境はほゞ外蒙古に接してゐる。三階の北側外蒙古は、四階を占め、世界の屋根パミール高原に連なる最高所であつて、それより以北は北氷洋岸に向つて漸次低下してゐるのである。京包線は、北京より坦々たる華北の平原を北行して、南口より謂ゆる南口パス、即ち前記の階段を登つて二階の入口である懷來盆地に出る。此處は海拔約五〇〇米であるが、西するに從つて次第に標高を增し、張家口は約七五〇米、大同は約一〇五〇米となり、平地泉の稍〻西方十八臺では約一五八〇米に達し、華北交通會社鐵道路線中の最高所に位し、それより以西は漸次低下し、厚和は約一〇四七米、包頭は約一〇〇五米である。

京包線の氣溫は、年平均六度乃至十度であつて、仙臺の十一度に比して稍低く、札幌の七度にほゞ匹敵してゐるが、夏期は爽涼、冬期も殆んど無風狀態であるために、南滿地方に比して遙に凌ぎ易いと云はなければならぬ。

殊に夏期は紫外線が豐であつて、清澄な大氣と共に頗る健康に良く、將來は炎熱地獄に喘ぐ華北人士の避暑地として大いに利用せられるに至るであらう。雨量は大凡、年平均四五〇粍乃至三五〇粍で、日本內地に比すれば遙に寡少であるが、その約九〇%は五月乃至九月の作物の繁茂期に集中してゐるから農作物の成育收穫には甚だ好適である。

×

蒙疆の全人口は約五二五萬人、このうち漢人が約九五%を占め、蒙古人は僅に三%の約十五萬人に過ぎず、また全人口の約八〇%は鐵道沿線たる前記二階地帶に居住してゐる。面積は約四五萬平方粁で日本內地よりも二割方大きいが、人口密度は一平方粁當り一二人弱に過ぎないのである。

蒙疆に於ける漢人の進出は相當古く秦代既に五原地方に入植し、張家口、大同地方は漢代に入込んでゐるが、漢人による農耕の發達は比較的新らしく多くは十九世紀の後半からである。

蒙疆に於ける名所舊蹟としては、南口附近の雲台及び彈琴峽、八達嶺の長城、下花園の鷄鳴山永寧寺、大同の上下華嚴寺、雲崗石佛及び東南約一〇〇粁にある恒山（北嶽）厚和の五塔廟、王昭君の墓、大青山線石拐子の五當召等、枚擧に遑がない程である。

京包線中、北京張家口間の謂ゆる京張線は、一九〇九年八月開通し、本線

內容

第五卷　第七號

グラフ

オルドスの娘…………表紙
蒙　疆…………1
京包線…………3
らくだ…………11
起ち上る蒙古…………13
オルドス…………17

よみもの

京包線…………26
オルドスの特殊性…………29
西北貿易の意義…………35
成吉思汗聖宮と神器スルタ…………37
蒙古草原に憶ふ…………40

は中國の技術と資金によつて完成した唯一の鐵道として喧傳せられ、張家口大同間は一九一五年九月、大同口泉間は一九一八年九月、大同綏遠（現在の厚和）間は一九二一年五月、そして厚和包頭間は一九二三年一月に各完成してゐる。この張家口以西の鐵道建設には日本の資金と米國の資材が相當注入せられてゐる。

京包線開通以前の蒙疆は、僅かに馬背によつてその豐富な畜產物等を多少華北地區に移出し、日用必需雜貨を若干華北地區より移入してゐたに過ぎなかつたが、一度鐵道開通するや農耕は沿線より漸次奥地に迄進展し、その餘剰農產物は支那事變前迄は年々三、四十萬瓲宛、食糧不足に惱む華北に輸送せられ、また所在の炭礦は開發されて畜產物、藥草等と共に續々華北に移出され、日用必需品は滔々として華北地區より流入し、斯くて京包線は蒙疆開發の動脈として、華北に對する輸血路として重大な役割を果すに至つた。

然るに支那事變を界として、蒙疆事情が一變すると共に京包線の輸送狀勢もまた一變せざるを得なかつた。今、事變前の最盛期とも云ふべき昭和十年と、事變後の最近の昭和十七年度とを比較してみると、石炭を主とする鑛產物は五十數萬瓲から一躍四倍餘に激增を示してゐるが、約四十萬瓲に及んだ農產物、約六萬瓲を算した畜產物が何れも半減以上であるのは西北貿易の杜絕、治安の不良等によるものであり、乘車旅客が約一四〇萬人より約四倍に增加してゐるのは、各種の惡條件に拘らず蒙疆の躍進を物語るものである。

即ち、事變前の蒙疆は單に中國の蒙疆であり、從つて此處に生產せられる各種の物資は、主として中國を對象としてのものであつたが、支那事變後の蒙疆は日滿をも相手とするに至り、口泉の謂ゆる大同炭は事變前の幾倍かの產額を示して、日滿の急需に應へ、百萬瓲に餘る宣化の龍烟鐵鑛を始めとして、宣化の滿俺鑛、陶卜齊・陶思浩等の石綿木綿、官村・蘇集等を中心とする雲母、口泉・下花園等の煨炭（天然木炭）等の新產業が興り、皮革、獸毛甘草、阿片等と共に戰ふ祖國日本を始め、滿華の軍需工業又は醫療に寄與するに至つてゐるのである。

更に又、躍進蒙疆の實相として、事變後、發電、セメント、カーバイト、釀造その他各種の工業が勃興し、これらに伴ふ燃料の急需に應へて下花園、大靑山等の諸炭礦は、近代施設による大開發が着々進捗してゐる。

大東亞戰爭勃發後の蒙疆は、一躍大東亞の蒙疆に更生するに至り、大同炭は世界的優秀な燃料であるばかりでなく最近の試驗により各種粘結炭にこれを四、五割混入して製した骸炭を使用することによつて製鐵の出銑率を一割方昂上させ得ることが判明した結果、大同炭の需要激增に伴つてその產額は急激に增加するに至るであらうし、龍烟鐵鑛もまた含有純分約六〇％の龐家堡鐵礦石が昭和十七年末から出鑛を開始してゐるから今後の劃期的增產が期待せられ、雲母、石棉等が增產に增產を重ねられると共に、黑鉛、螢石等の緊要な軍需資源も近く採掘に着手されるに至つたし、これらは何れも戰ふ大東亞の活力素としてその效果は刮目に値する。唯、穀類その他の農產物、畜產物の產額が、事變前の域に達せず、華北の食糧不足を救ひ、戰ふ日本に皮革獸毛の補給に充分應へ切れない感はあるが、これが克復も遠き將來ではあるまい。

斯くの如く、現在の蒙疆は戰ふ大東亞の兵站基地として多大の貢獻を爲しつゝあるが、これが將來は更に赫々たる希望と光明に輝いてゐるのである。即ち蒙疆の石炭はその埋藏量四百餘億瓲と稱せられる大同炭田を始めとして

大青山炭田、下花園炭田、張北炭田等蒙疆の總埋藏量は五百億瓲と計算せられ、龍烟鐵鑛もまた既に判明してゐるものだけでもその埋藏量は二億數千萬瓲に達し、更に百靈廟附近にも純分六〇%以上あつて全山鐵鑛石から成つてゐるものが最近發見された。

また石灰石、礬土頁岩等は到る處に賦存する等、前記諸資源と併せて蒙疆は實に地下埋藏物の寶庫であり、これらは戰爭の終熄すると否とに拘らず、大東亞共榮圈建設の基地としての蒙疆の明日を約束付けるものであらう。

×

一方、華北地區は棉花の増產その他により、將來益〻食糧不足を豫想されるが蒙疆の穀產は治安の回復により、事變前の狀態に復歸することは勿論、現在の蒙疆には水利の不足等によつて廣大な荒蕪地が死藏されてをり、若し黃河のダム等によつて灌漑の便を興す事になれば莫大な耕地を得、オルドフ沙漠だけでも悠に二千數百萬の農民を收容し得ると云はれ、これらの生產物は、容易に華北の食糧不足を解決することが出來るのである。

由來、沙漠を制するものは世界を制すると云はれてゐるが、多分に肥料分を含有する濁水を大量に湛へる大黃河の存する以上、これらの沙漠を征服して沃野化することは決して痴人の夢ではない。また此の黃河を治むることによりて每年襲はれる華北の水害の大部分を免かれ得させると共に、近き將來必ず起るべき中國の人口問題解決の鍵を爲すものであつて、誠に一石三鳥の妙案と云はなければならない。

×

更に蒙疆の持つ重大な意義に、對西北問題がある。土耳古、中央亞細亞、新疆、蒙疆を通ずる道路は太古からシルクルートと稱せられ、當時に於て唯一の亞歐連絡路として偉大な役割を演じたことは歷史の證するところであつて、ソヴエート共產主義が滔々として本路を經て中國に入り込み、遂に今日の中國共產軍を育成したのは未だ人心に新たなところであつて、また事變前に包頭、綏遠（現在の厚和）を中心とする對西北貿易は、皮革、獸毛、藥草阿片、乾果等の移入年額一〇萬瓲に餘り、移出雜貨また數萬瓲に達したと稱せられてゐること等によつて觀ても政治的に、また經濟的に西北問題の重要性は自ら明らかである。

現在の日本人は、ともすれば南方共榮圈の絢爛さに眼を奪はれて地味な西北問題を等閑視し勝であるが、西北問題の解決こそは大東亞共榮圈の確立と不可分の關係にあることを知らなければならない。そして西北問題解決の基地としての蒙疆の地位は、絕對的であつて蒙疆を離れて西北問題は論ぜられないのである。

斯く觀じ來れば、戰時中は勿論、戰後に於ても蒙疆の重要性は明らかであり、その價値はその政治、經濟、文化の動脈としての京包線の存在によつて生ずるものであつて、これがなくては折角の蒙疆も徒らに寶の持ち腐れの嘆き無きを得ないであらう。

併し、現在の京包線はその附託に充分應へるべく、なほ幾多の問題を包藏してゐるのである。卽ち當時にあつては最も賢明で且つ有效である南口パスも、その他の線路施設も現在並に今後の輻輳する客貨の輸送を完遂するには餘りに隘路の觀なきを得ないし、また單に北京天津に連なる現在の一本線のみでは、複雜多岐な國際情勢に應ずべく餘りに單純であり、また包頭に止る現在線のみでは西北問題を解決すべくこれ又餘りに短少である。

今日の蒙疆は遂に明日の蒙疆ではない。現在の京包線をして明日の京包線であらしめなければならないものである。（筆者・華北交通張家口鐵路局運輸部長）

オルドスの特殊性

―概況と動向―

淺地央

オルドスの顔

オルドスは、胡砂吹き荒ぶ砂漠地帯のみではない。

蒙漢混住の特殊形態が如實に示す通り、豐沃な農耕地と、馬來草の花揺ぐ綠の牧野と、そして鹽、曹達、鉛、石炭のほか幾多の地下資源を擁して多樣な將來を誇る經濟地帶であると共に日章旗と蒙古政府四色七條旗の限り無く逞ましい前進を翹望しながら、今こそ成思吉汗の血に新らしく甦つた十萬の蒙古人が、重慶政權の奸謀と共產黨の魔手とに必死の抗爭を續けてゐるのが現オルドスの姿である。

オルドス並に伊克昭（イフジョウ）の語義語源に就いては、各種異說があるが、オルドスのオルドは宮殿であり、スは複數を表はす蒙古語の語尾であつて、蒙古人の傳承に依れば、西夏討伐中不幸陣歿した太祖成吉思汗の聖靈を故鄕オノン河畔に還す途中、突如柩車が止つて動かなかつた地即ち現今の郡王旗伊金霍洛（イヂン・ホロ）の白八室聖宮（オルド）に由來するものと稱し、包維翰の全蒙盟旗沿革誌にも「初め太祖の廟を司らしめた事に由る」と記してゐる。また伊克昭は蒙古語のイフ（大いなる）ジョ（蒙古語のスムに當る西藏語の廟）の漢音文字で、この大廟は一說に依ればオルドス蒙古の始祖である車臣汗の遺骨を祭る「王愛召」から轉化したものであらうと謂ふが、或は白八室聖宮を後世佛教思想の影響によつて大廟と一般に言ひ馴らした事に初まり、オルドスもイフジョウも同一義ではあるまいかと想像され、內蒙地名のうちで最も成吉思汗に由緣の深い地である。

この地は元來、單に黃河の曲抱と長城線に劃られた地域を指すのでは無くして、東は黃河、南は陰山山脈の狼山烏拉山、大靑山に及ぶ廣大な地域を示稱したものであつたが、淸朝の對蒙政策によつて烏蘭察布、伊克昭の二盟が制定され、黃河以南を伊克昭としたため、オルドスもまた狹義の通念を人々に與へるに至つた。

現今の準噶爾旗河北地區及び五原、臨河の後套地區は當時黃河以南の地であつたのを、惡戯好きの黃河が其後流域を現在の位置へ變へたので、何時しか河北となつてしまつたものの、今猶この二地域は當然オルドスへ包含されるのである。

廣袤約二十七萬方粁。丁度日本の北海道に匹敵するが、北は烏蘭察布盟を隔てて外蒙を望み、西南は寧夏、甘肅陝西各省と直接隣接して謂ゆる支那西北五省に連なる重要地帶である。

地形は南方長城線地方の隆起一、六〇〇米で黃河沿岸に向つて一、〇〇〇米の傾斜減高を見せ、西部黃河河畔の「アルプス山」及び東部準噶爾旗に若干の起伏があるのみで、概ね高原地帶である。

地質は、黃河沿岸は頗る肥沃で、將に「黃河は百害あり一套を制す」の至言を最も強く具現し、謂ゆる沖積黃土地帶で一般にアルカリ性を含むが水利を得れば黃土特有の毛管現象によつて柔軟豐沃となり、特に後套地區は四通八達の水渠河川を利用した豐饒な粘土質の農耕地である。而し、西部地帶は高度高く乾燥地帶が多い。

歷史的特殊性

古來、オルドスは、民族爭奪の地として、南北兩民族の激しい角逐場としてその歷史が綴られる。

「土方」「足方」、世界最古の蒙古關係文獻である「甲骨卜辭」にしきりと凶猛な二民族の名が表はれ、殷以前の各朝を此の地から疾風の如く襲つて惱ましたものであつた。

戰國時代既に匈奴がこの地に馬を養つては支那本土の諸國を盛んに侵寇してゐたが、秦の始皇帝が即位するや專ら蒙古經營に意を注いで、

「兵を暴し、師を露す、十有年、死者あげて數ふべからず」

との激しく慘ましい犧牲によつて萬里の長城を築修すると共に、夷狄を征するには、オルドスの征覇無くしては叶はぬと悟つて、宿將蒙恬に兵三十萬を授け、必ず匈奴を討つてオルドスの地を收めよと命じた。

蒙恬は黃河を渡つて大いに匈奴の軍を擊摧し、陽山即ち今の陰山山脈中の一山や、五原・臨河西北の狼山山脈中の高闕にまで軍營を進めたので匈奴の長「頭曼單于」は陰山を越えて逃れ去り、後年內外蒙古から東トルキスタン

にまたがる大帝國を建てた匈奴も、オルドスの地を失つたので僅かに外蒙不毛の地に余喘を保つのみであつた。

蒙恬は河南の地を回復すると、燕や趙、秦の邊城であつた防壁を土臺とし延々萬里、高厚約二丈、百歩毎に堡塞を設けて兵を配置する長城を連結し、地味豐沃を見定めて貧民の移植と屯田兵を置き、強固な北邊の備へを布いたが、奸物であつた宦者趙高と、宰相李斯に謀られ、この北邊の地で都を見ることも無く自刄して果てた。朔風に頬を削り、外征と邊境防備の辛勞に報ゆるには余りにも慘酷な待遇ではあつたが、その爲再び匈奴が興つて秦兵を追ひオルドスの地を回復してしまつた。

漢の武帝が即位すると、元朔二年勇將衞青・李息に命じて匈奴を討たせ、首虜を斬る事數千人と蒙古地誌に書いてあるが、明年匈奴復た入寇して遼の太守を殺し、漁陽を攻掠したので衞青・李息の兩將軍は匈奴を追つて出撃し、河南の地を收めた。

これからは漢と匈奴との抗爭、後漢の進出、義熙年間の赫連勃々の占據、北魏唐・隋のオルドス地方經營、西夏帝國のオルドス占據、突厥吐蕃の進寇、等が續き、めまぐるしい此の地方の弓矢刀劍の鳴りは、オルドスの爭奪を巡る民族角逐の血の歴史であつた。而し、この忙しい爭奪の裡にもオルドスブロンズと謂はれる青銅文化の時代が展け、今もつて我々の眼を驚嘆させるのであるが、元代には成吉思汗の勃興と共に西夏との抗爭が續き、その都度オルドスは凄壯な戰場と化し、遂に西夏は成吉思汗に滅されたが、成吉思汗もまた不幸陣歿し、轔々として柩車がこの地を送られて行つたのである。元はこの地の重要性に鑑み、中興路を置いた。

明初には王保々が河套に據つてゐたが洪武年間に明はこれを逐つて東勝城を築き、耕牧を奬め暫くは漢人の手に歸したけれど、天順六年に毛里亥等蒙古民族が河套に進攻し、明と勝敗を重ねること數度、蒙古中興の英傑達延汗の勢力がこの地に伸びるに及んで、汗は諸部族の要請を容れ、第二子烏魯斯博羅特を右翼濟農に任じ、オルドス經營に當らせたが、後、自ら兵を率ゐてオルドス諸衆を撃破し、以來オルドスを根據とする代々の王は或は寧夏を襲ひ或は延綏に現はれ、明邊を寇し全く明人をして蒙古の宗黨部落が河套にあるかの感を抱かしめたものである。

達延汗と代々の雄略でこゝが蒙古民族の地となるに及んで、達延汗の第三

連鎖狀球菌
葡萄狀球菌
化膿性
慢性
急
に依る
諸疾患
中耳炎
扁桃腺炎
【適應症】
産褥熱、敗血症、肺炎、盲腸炎、面皰、丹毒、急慢性淋疾、化膿性婦人科諸疾患等
トリラックス錠
錠劑（〇・三）二〇〇錠 一〇〇錠
製造發賣元
東洋製藥貿易株式會社
大阪市東區道修町

子太祖十六世の孫、巴爾斯博羅特濟農の長子、袞弼哩克圖墨爾根（ホンビリクトモルゲン）濟農、別名車臣汗に九子あり、これにオルドスを分ち與へたのが今日鄂爾多斯七旗の濫觴であると謂はれる。

清朝に至つてオルドス蒙古民族は太祖の察哈爾時代や陝西の賊の平定等、幾多忠誠の誓ひを示したので、順治以後、王侯は各札薩克に封ぜられ、伊克昭盟を構成したのであるが、その以前に內蒙王公會議によつて清國皇帝は蒙古大帝の大統を繼承する事になり、蒙古各部族は清朝に服屬し、蒙古衙門によつて支配を受けた。蒙古衙門は後に理藩院、更に理藩部と改められた。

清朝の永い歷史に徹した巧妙な懷柔政策によつて、他の蒙古部族のやうにオルドス蒙古の刀槍も暫くは錆び始めたが、幾世紀にも亙る民族の角逐こそ

「匈奴この地に據れば兵馬百萬を養ひ、よく本土を寇し、歷朝この地に據ればよく內外を制す」

この言葉の裡に最も端的にその眞因を含み、且つ最も具體的にオルドスの歷史の特殊性が表はれてゐる。若しこの地を得れば農牧兩樣の有力なる兵站基地となつて後顧の憂ひ無く四方を攻略し得る絶好の地盤となる。

從つて、その昔（かみ）、成吉思汗の柩がオルドスに停つて動かなかつたと傳へる古事も、生前成吉思汗のオルドスに對する關心とを想ひ併せ、「慧眼をもつてオルドスの政治的、經濟的重要性を見拔いた汗が、子孫必ずこの地を守れと示遺したことが傳說化されたのではあるまいか……」現伊克昭盟に逞しい熱と力を湧き立らせる黑澤隆世參與官のこの言葉こそ、オルドスの歷史的特殊性を把へた含蓄深い言葉として胸を搏つものがある。

蒙古民族は清朝の政策によつて眠つたのでは無かつた。烈しい火の熔岩が暫くは地底を潜つてゐたのに過ぎなく支那事變、大東亞戰爭等、新らしい大東亞建設の曉鐘が鳴り響くと、蒙古民族達も起ち上つた。時代は移り歷史の變化は目覺ましいが、オルドスの歷史的特殊性は決して失はれては居ない。

さればこそ、新らしい蒙古の建設に蹶起した蒙古人達は、オルドスこそ蒙古復興の基地であると强い叫びを上げて止まぬのだ！

政治的特殊性

オルドスは寧夏省と陝西省に抱かれる一大嚢狀地帶であつて、直接重慶抗戰陣と中國共産軍及び西北支那の馬聯盟が牛耳る回教勢力に接觸する上、陰山山脈を隔てて外蒙に通ずる地域であり、且つ京包線の終點から或は陸路、或は水路と幾つもの交通路を結ぶ要衝であつて、其の上ヨーロツパを繫ぐ最短距離として事變前、亞歐路が計畫されたこともあつた。而も民族的には蒙漢混住地帶であるが、察哈爾のやうに漸次農地の浸蝕があるのでは無くして後套、東勝、沃野を除けば今尙嚴然たる封建制度下に、札薩克が蒙古人と漢人を同時に支配し、從つて旗行政は錫盟、烏盟とは違つて複雜性をもつてゐる。斯うした政治的特殊性を重慶や共産軍が見逃す譯がない。

大正元年、外蒙第一次獨立の折、烈しい動きは無かつたが何かしら底に沸々と沸るものがあつて、當時綏遠省將軍張紹曾が巧妙な謀策をもつて之をやうやく靜めることが出來た。

オルドスを制壓するには先づ漢人移墾が必要であると考へた張紹曾は盛んに移墾民の導入と蒙旗の漢化を計つたが、底で燻る蒙古自興の炎だけは如何ともする事が出來なかつた。

活佛章文軒の暗躍や、盧占魁一派の活動も、その表れであつたのだ。怪傑章文軒――この人物は現身でありながら佛である活佛だつたが、經文よりも兵馬に長じた怪異な偉材で、現今猶オルドス鄂托克旗の王府附近にゐる。

大正十四年には郭道夫、白雲梯等の共産黨員が竊かに入り込んで暗躍を續け、伊克昭盟獨特の民衆決議トクイロン（多古倫）を開催して工作の擴大を計つたが、間も無く失敗に歸した。

クリルタイは部族長の集會であるがトクイロンは民衆決議の集合と議決で他の蒙旗に見られぬ伊克昭盟獨特のものである。

オルドス蒙古のうねりが、遂に滿洲事變を機として沸騰した。

事變の翌年、德王一派の內蒙高度自治要求の運動が草原に火を發すると、南京政府（舊）への挑戰となつて昭和十一年には聖地百靈廟で雲王・德王等を首班とする蒙古地方自治政務委員會が成立し、現伊克昭盟長阿王が委員に任され、これを蒙政會と略稱して當時の南京政府に對する政治鬪爭の火蓋が切つて落された。

傅作義は、オルドスの政治的重要性を識つてこれが懷柔に汎ゆる手を用ひたのである。

昭和十二年七月、支那事變の勃發に伴ひ、破竹の勢ひで進擊した日本軍の援助により、厚和に雲王・德王を主腦とする蒙古聯合自治政府が成立すると嚴重な傅作義の監視の眼を潜り、或は

身を以て脱出し、各旗王公は新政府へ踵を接して集つて來た。

同年十一月、今こそ太祖成吉思汗の血に生きるのだと、郡王旗の成吉思汗寢園地、伊金霍洛（イヂンホロ）の地で、「伊克昭盟王公會議」を開催して衆議一致、起ち上る蒙古のために新政權を祝し決議文を提出、これによつて新政府に固い忠誠を誓つたのである。

だが其後、傅作義や馬占山や高双成がこの地を冒し、敗慘重慶政權に呼應して抗戰第二戰區を形成したので、阿王その他は激しい戰ひを續けながら故地を捨てて包頭に脱出し、日章旗のもと同志と共に新生蒙古建設に營々たる努力を傾注し、不幸敵軍の下に殘つた王公は嚴しい監視のため新政權への繋りを斷たれるに至つたが、以來包頭に在る阿王やその他の蒙古人は、將來必ず敵重慶系軍を討つて故地を回復するのだと決死の意氣で機を窺ひ、他方、敵の下に日一日呻吟を强めつゝある蒙古人達は、陰に陽に重慶政權の驅逐を圖つて待望の旗が來る日を賴みつゝ死鬪にも等しい抗爭を續けてゐるのだ。

この點、錫林郭勒盟、烏蘭察布盟と著しく事情を異にするのであるが、斯かる政治的特性の裡にこそ伊克昭盟の大いなる任務の一つがある。

そして又、故地回復を熱望して止まぬ蒙古人達、永い重慶との抗爭の熾烈化から益々日本依存心を强めつゝある蒙古人達、これ等オルドス十萬の蒙古人こそ、他に類を見ぬ政治的激浪にもまれ且つまた、久しい間の混住から文化性と民度を高めてゐるので、將來は必ずや前進蒙古民族の中樞となり、大東亞建設を完うする蒙古興隆の重要人的資源となるであらうが、やがて彼等が完全にオルドスで馬首を揃へた時こそオチナ蒙古、アラシヤン蒙古も魂を搖り動かさずにはゐられぬであらう。

經濟的特殊性

一望千里、平坦廣漠の沃野オルドスは、既に古く墾民の入植があり、秦時代蒙恬が屯田兵を置いた程地味肥沃で農耕に適すると共に、「旱地に羊、水地に馬、冷地に駱駝」と謂はれる牧畜の適應性を具備し、また未開發ではあるが無限の地下資源を藏してゐる。

一、農業

オルドスは雨量は少ないが黄河の水利を得て古くより豐饒に麥、蕎麥、糜子、高粱、豆類、胡麻其の他の農産物を生産した。

土壤は沖積黄土で鹽分を含み、灌漑すれば柔軟豐沃となるが、水を得なければ石田となり、從つて農民は多く黄河沿域に集つた。

前淸末の光緒二十八年に墾務大臣が設置され、國家的事業として積極的に墾植が奬勵されて盛んに開渠開墾が行はれたのであるが、就中、前套、後套、西套の裡後套が最も開墾が著名であつて、民國二十一年、閻錫山は二十七ケ中隊、總兵力約三千五百餘名を後套に配置して開墾に當らせたものである。

民國時代の統計によれば、雜穀の年産額約百十萬石と謂ひ、蒙疆の糧食を安全に賄つて猶移出をも充分出來得るが、現今もつと增産されてゐるものと見られる。

本地域は農産物が豐富であるのみならず、滿洲の東草に對してオルドスの西草と稱ばれる程、甘草の産出が有名であるが、年二回、即ち三月五月七月の春草と、八月九月十月の秋草を以て民國時代の調査では年産額約百四十五萬トンと云はれ、その大半は鄂托克旗で採取したものであると稱せられる。

猶、甘草の他に特殊藥草も生産せられ、同じく民國時代の發表では年産額百萬兩は下らなかつたと謂ふ。

二、牧畜

嘗て成吉思汗が生前、オルドスの地を限り無く賞した言葉を傳へてゐる。

最新 男性賦活ホルモン
Ⓟ
セキマイン
鯨睾丸製劑
製造發賣元 大日本製藥株式會社
大阪市東區道修町 支店 奉天市大和區浪速通

「飢ゑたる孤鹿の住み良き地、老い衰へたる羊の養ひ良き地」

太古から既に緣深い好適の放牧地であつたのであらう。

オルドスで最も牧畜が盛んなのは、比較的農耕民の少い烏審旗、鄂托克旗、杭錦旗、郡王旗等であるが、漢人農民が墾住し蒙古人で農耕に從事する者が多い達拉特、準噶爾の兩旗でも農耕の傍ら家畜を放牧してゐる。

從來より明確な統計を缺いてゐるので、總數は不明であるが、試みに民國時代の統計をみると、農耕地である五原、臨河、東勝のみで馬約二萬五千頭驢約二萬三千頭、騾約二萬五千頭、牛約五萬頭、羊約三十萬頭、駱駝約一千頭で、草原地帶各旗を合算すると夥しい頭數に上るであらう。

オルドスの畜獸中でも馬は頗る著名であり、「蒙古遊牧記」に依れば、「取馬不用套竿、隨牛執之、水土食物皆甚宜」と、頗る康熙仁皇帝を感嘆せしめてゐる。

特にオルドスの牧畜で注意を牽くのは、住民は概ね固定家屋に定住してゐるので必然的に放牧圏園を制約され、從つて將來は集約的牧畜に移行する可能性が非常に強い事だ。

豐富な獸毛獸皮が、豐饒な農産物と併せて産出される。これがオルドスの大いなる强みではあるまいか。

三、鑛産

現在、石炭、曹達、鹽等の採掘採取が行はれてゐるが、オルドスは夥しい地下資源を藏してゐると古來より謂はれ、未だ調査が充分行はれてゐない處女地である。

石炭は從來住民の手に依つて露天掘が行はれてゐたもので、「綏蒙輯要」どに據なると、二疊紀系及び侏羅紀系の石炭が埋藏されてゐる。

而し調査不充分なので果してどの程度鑛脈が深く何處まで走つてゐるのか想像も許されぬが、住民は盛んに原始的な方法で採掘を續けてゐる。

放牧、農耕をする傍、住民は採鹽、製鹽に從事してゐるが、オルドスの鹽は無盡藏である。鄂托克旗では鹽池淖草鹽池淖、腦包池の鼎形を成してゐる。三湖から採鹽し、湖底は平坦で鹽層は一、二寸から一、二尺迄で、純白大粒の鹽であり、また杭錦旗の大治海子、東部には豐富な鹽層がある他、察斌鰵布素淖、哈達圖淖、烏爾杜淖、陶好圖淖、毛到頭淖、哈認克圖淖にも鹽が多量産出し、この中、察斌鰵布素淖が最も良鹽であるとされてゐる。

鄂爾多斯の曹達は著名であるが特に鄂托克旗の曹達が有名であつて、これを鄂錠と謂ひ、杭錦旗に生産される曹達を杭錠と謂つてゐるが、鄂錠は白色であり、杭錠は黃色である。

住民は煉減用の鐵鍋六個を一組としこれで一日に曹達二十塊は製造し得るので、農民達の恰好の收入である。

曹達はオルドスの湖水では大抵産出されるが、就中、察汗諾爾、巴彥淖、杭蓋淖、大納林淖がその主なるもので年産額は察汗諾爾のみでも一擔百斤として四千二百二十萬擔以上、杭蓋淖では二萬擔以上と謂はれるので、全オルドスの産出額は素晴らしい數量に上るであらう。

以上の他、後套地區には石綿が産出し、また鄂托克旗「アルプス」山地方には鉛の採鑛があつて、豐富多樣な夥しい資源は驚嘆に値するが、これと共に絶對に見落してならない事は從來この地が寧夏、甘肅に通ずる重要な西北貿易ルートであつたことである。リンリンと鈴を鳴らしながら駱駝の背に搖られる回教徒達が、オルドスを通り包頭に現はれて京津地方と商取引を行つたが、その額は事變前の對京津貿易の大部分を占める程の莫大な額に上り、年額推定約八千萬圓と謂はれるが、この商業經濟力と共に、これを通じての西北回教徒としての强い結繫及び西北回教圏内に住む八十萬の蒙古人との固い紐帶の可能性こそ西北貿易の最も特質とするところであつた。

從つて、史上著名な民族角逐場としてのオルドスは單に南北民族の接衝地帶として血腥い矢叫び雄叫びの修羅場を現出したのでは無くして、斯かる豐富な經濟力とその特殊性の上に立つた必然的な民族勢力の扶植消長の壯絶必死の決戰場であつたのだ。

「匈奴之ヲ得レバ則チ兵ヲ蓄ヘ、馬ヲ牧シテ南犯ヲ圖リ、趙之ヲ得レバ則チ地ヲ雲中ニ攘ツテ西北ヲ略シ、武之ヲ得レバ則チ王庭北掛シテ邊塞ヲ請ンジ、唐之ヲ得レバ則チ突厥ヲ降シテ北方ヲ控ヘ、明之ヲ得レバ則チ三衞設ヲ置シテ蒙古ヲ制ス」

この支那史上有名な言葉は、最も端的に經濟的要衝であるオルドスの特質を述べ、古來より兵站基地としての重要性を表現してゐる。

而もこの經濟的特殊性が、前述の民族的特殊性、政治的特殊性と强い有機的な結合のもとに現今益〻重要性を增大してゐるのであるが、さればこそ今や沒落の深淵に喘ぐ重慶政權や政治經濟ゲリラ戰を得意とする中國共産軍が決してこの要地オルドスを見逃すもの

ではなかつた。
　重慶第八戰區軍の蠢動、中共の北上企謀、そしてこれに抗爭する蒙古人達今やオルドスに火が點き、どの一端を押してもオルドスは鳴り動くかの感があつて、この中へ故地回復を熱望する蒙古人達が、大東亞建設の熾烈な意志のもとに一歩々々逞しい建設の巨歩を未接收地へ進めてゐるのである。

動く伊克昭盟

　昭和十二年十月十七日、皇軍が包頭に入城して附近の肅淸と東勝攻擊を完了すると、黃河南岸オルドスの蒙古人約一千名は暴逆な敵の蹂躪と掠奪を避けて包頭へ蝟集して來たが、オルドスの虎豹將軍と謳はれるシンガイリンチン（森蓋林慶）は保安隊六百名を率ゐて蹶起し、皇軍に協力して奮鬪する一方、準噶爾旗西官府「奇默德納爾布」もまた保安隊二百名を以て黃河々畔に據り皇軍依存のもとに新政府へ忠誠の旗幟を飜した。
　各王公も起ち上つた。而し傅作義の武力による阻止と馬占山の侵入によつて、厚和の新政府蒙古聯盟自治政府との連絡が遮斷されるの止むなきに至つたので、阿王始め各旗の貴族、重臣有志達は果敢な戰鬪を續けながら身を以て包頭へ脫出して來たのであるが、昭和十三年三月二十一日にオルドスの未接收地區接收及びオルドス政治工作の重大任務を以て伊克昭盟公署が設立されるや、これに參劃し沙王を盟長、阿王を副盟長とし一致團結ひたすらオルドス工作に邁進してゐるのである。
　其後、沙王は敵の嚴重なる監視下に在り容易に脫出の機會に惠まれないので、阿王を以て代理盟長とした。
　現在伊克昭盟公署行政浸透地區內に在る蒙古人有志達は、曾て、王侯貴族或は重臣としてオルドスに權勢を誇つてゐた人々であり、敵のため家產を奪はれるもの、妻子兄弟は敵地區に監視されてゐるもの、或は一家離散せるもの等、今は哀寂孤獨の境地に逆轉したとは云へ、益々敵愾心と依日興蒙精神を强め「我々よりも、現在敵監視下で我々を待つ同族達を去就に迷はせてはならぬ……」と、燃え熾るオルドス工作の鬪志を昂めてゐるのはいぢらしい程である。
　この裡で、大樹灣は他の蒙旗地帶に類を見ない特殊性があつて、約二百戶の蒙古人が永い傳統を破つて農耕に從事してゐるのであり、集團部落の生活も旗公署の指導によつて漸次充實して來てゐる。
　牛や羊や馬と共に豚を飼ふ蒙古人、鷄卵を數へる蒙古人、斯うした從來に見ない蒙古人部落に對し、蒙旗は飽くまで遊牧社會の上に形成されねばならぬと說く人もあるけれど、それは錫盟烏盟等の草原に適用される言葉で、大樹灣の墾民蒙古部落は自然的、社會的條件によつて農耕する以外に起ち上る途は無かつたのだ。
　凡そ、蒙古民族發展の途は二つあるが、一つは飽くまで草原を基礎とした新らしい遊牧文化を樹立して行く途であり、一つは農耕に活路を求める途である。從つて大樹灣こそ蒙古の一つの進路を示す試驗場として、その成果は全蒙古に關はる重要性を持つてゐる。
　倖ひ、昨年は好成績であつて、千五百石の豫想收穫量を突破し、千六百石の雜穀が收穫され、十二月二十三日に盛大な豐穰感謝祭が擧行された事は未だ耳新らしい。そしてこの大樹灣の成功が敵に與へた脅威は頗る大きいものがあつた。
　西碾房は蒙古人を主體とした漢人墾民部落であつて、此處には勇猛を讃へられるオルドス挺身隊が駐屯し、永い間前線の護りに任じてゐたのであるが最近警察隊に改編され、オルドス挺身隊の名は遂に語り草となつてオルドスから消えたのである。
　砂漠の虎豹と謂はれる森蓋林慶將軍は、支那事變勃發と共に皇軍に協力し敵に勇名を轟かした獨學力行の人物でオルドス挺身隊長時代には馬に鞭打つて第八戰區敵軍を蹴散らしてゐたものであつたが、現在は伊克昭盟治安處長として更に警備擊敵に盡力してゐる。
　この森蓋將軍と共に、若年ながらも勇名を謳はれるのは準噶爾旗西官府協理臺吉阿拉坦保魯特である。流石は名門の出身だけに、氣品才幹は衆に棟領たるに相應しく、昭和十四年二月、馬占山の奸謀に呼應した白鳳翔のため、父の「奇默德納爾」協理が捕へられ、後、馬占山の手で同年三月四日暗殺されるや、爾來、復讐の血はたぎり、ひたすら河南進擊の機が到來するのを待つてゐた。遂にその日が來た。
　本年五月七日午前零時、勇猛果敢な敵前渡河を敢行して要衝新召城を奪取し、今も猶、東北挺身軍新編騎兵第五師、第六師と壯烈な激鬪を續けつゝ、宿願の河南進出を達する事が出來た。阿拉坦保魯特正遂に黃河を渡る！
　全オルドスに谺するこの叫びは、前進伊克昭盟の血と熱を最も如實に表現するものである。

（筆者・蒙疆包頭市伊克昭盟公署弘報班長）

西北貿易の意義

井上　漸

西北貿易とは何であるかと云へば、其の本質は頗る簡明である。蒙疆地區内に於ける西北貿易とは、卽ち西北各地と海外市場、又は華北市場を蒙疆地區内の一點に於て結ぶ通過貿易である一貿易型態を云ふのである。

從つて包頭に於ける西北貿易とは、西北各地(中國より見た西北邊疆地區卽ち寧夏、甘肅、青海、新疆各省)を漠然と總稱したものであつて、劃然とした地域を指すものでないことは勿論である。

海外市場、又は華北市場(現在は主として華北市場)を包頭市場の一點に於て結ぶ通過貿易を云ふのであつて、包頭市場が西北貿易に於て有する意義は其の通過貿易ルート上に於ての一地點としてのみ存在するに過ぎないのである。

所謂、西北貿易は西北畜產資源の海外輸出といふ點から見れば從來より重大な役割を演じて居り、將來もまた大いに其の重要性が認められるものであるが、蒙疆地區に對する意義は專ら前述の如く西北貿易の通過ルートとしての上に於てのみ關聯を有するものであり、殊に事變後の新取引機構下に於ける西北貿易に於て一層その意義が明瞭化されて居るのである。何故かなれば包頭、綏遠に出廻つた西北物資は、事變前に於いては、海港天津市場を通して海外市場へ、事變後に於いては、主として華北市場へ移出せられ、一方、西北地區の要望する生活必需品も、前者と反對のコースによりて蒙疆地區を通じて供給せられ、其間蒙疆に對する西北原料資源の供給又は蒙疆生產物の對西北地區供給市場と云ふが如き、卽ち蒙疆地區が西北地區に對し消費又は生產市場たるが如き有機的な依存關係を有するものではなく、近く將來に於ても斯くの如き依存關係によりて西北地區と蒙疆地區とが結ばれることはあり得ないと思はれる。

駱駝曳きの唄

(厚和特務機關　須永唯史譯)

拉駱駝的人上了工　駱駝曳きとはなつたけど
嘆罷了頭一聲　先づ嘆息が出ますわい
買包布釘大鞋　包布を買ひ靴直しや
支使了拾兩銀　拾兩の銀が素つ飛ぶし
買皮襖和皮褲　皮衣や皮褲を求めると
花了個淨打淨　あはれ財布は空つぽさ
留下了父和母　後に殘した兩親に
無人來照應　誰が仕へて吳れるやら
又留下少年的妻　後に殘した花嫁の
兩眼淚盈盈　ためた淚が目に浮ぶ

更に現取引機構下に於ての西北地區よりの獲得物資中の重要部分は、特需に供給せらるゝ關係上、蒙疆政府輸出爲替の獲得にも貢獻する處少なく、且つ通過地點たる包頭又は綏遠の中繼市場を需す點に於ても事變前の如くではない。

蒙疆地區の對西北地區の有機的關聯性は却て減退し、依然として蒙疆地區は貿易ルート上の一地區としての重要性を有するに過ぎないのである。

叙上の如く、蒙疆地區と西北地區とを結ぶ西北貿易は、過去現在並將來に於ても直接的需給關係を有するものとは思はれず、蒙疆地區が終始貿易ルート上に於ける一地點としての重要性を有するものであるといふことが蒙疆地區に於ける對西北貿易の本質であり、意義であるのである。

民國初年、旅蒙貿易及び對西北貿易上の東口として、河北並に山西資本の活躍が盛んであつた張家口が鐵道延長の影響を蒙つて、其の繁榮の一部(西北貿易の殆んど全部)を當時の綏遠(現在の厚和)に讓り、更に民國十二年一月、京包全線の開通によつて包頭市が現在の厚和の商業資本繁榮を奪つての經濟變遷は、叙上本質の然らしむる處である。從つて將來鐵道が五原又は寧夏に延長せらるゝ時、包頭中繼貿易の地位は當然鐵道終端驛の所在地に置き換へらるるのは經濟的に自明の理であり、且つ斯る時に於ても對西北貿易の本質は更に變改せられない事も理の當然である。

將來、西北貿易の本質變改の事象の發生があるとすれば、基因は蒙疆地區に於ける經濟的變貌以外には存在し得ないであらう。然してその經濟的變貌なるものは、生產市場並に消費市場としての蒙疆地區の發展躍進の他はないのである。(筆者・華北交通包頭公所勤務)

成吉思汗聖宮と神器スルタ

淺地央

スルタの由來

綠濃い草原は、お花畠よりも鮮やかな花であつた。

モンゴル氏族の英雄コトラ可汗の子アルタン、カブル可汗の末裔クチャルそしてサチアベキの三人は、小波が輝いて見えるセングル小河から、デュルゲンの「青い湖」の畔を馬で驅け乍ら畔に火のある鐵木眞を汗に推戴することを相談し

「戰の日に貴方の號令に違つたならば、我々の家業や妻から離れさせ、黑い頭を刎ねて大地に棄て去つて下さい。泰平の日に貴方の協議を守らず破つたならば、我等の家人や家業や妻子から離別させて人煙絕えた土地に棄て去つて下さい。」（元朝祕史）

この切望を容れて一應可汗となつた二十八歳の青年鐵木眞が、四十四歳の西紀一二〇六年（世紀一年）正式の大汗に即位する迄は、汪罕との爭鬪、太陽汗との戰鬪、諳達札木哈との戰ひ等專ら部族內の統一に軍馬を指揮し、其の間、幾度か窮危に陷り乍らも機略と不屈の鬪魂を發揮して克く部族統一の大事を成就した。

部族を寇する邪惡は、地の果て迄も討たねばならぬ。

熾烈な世界制覇の第一歩として、西紀一二〇五年、陝西省の北方、オルドスの西方に當る西藏系の唐克特王國に征馬を進めたが、敵の包圍を被り現今のオルドス郡王旗伊金霍洛東北方の地で激戰數刻、苦戰の裡に夜が明けると麾下の將兵は概ね討死し、朝露が血潮で染つてゐるのだつた。

斬り開く血路とても無い。

成吉思汗は自分の征戰こそ蒙古興隆の最も正しい唯一の途だと確信してゐたので、矢が集注して來るのも嫌はず靴を脱ぎ甲冑を外して、若し蒙古民族に鐵木眞が必要と思召すなら窮地を脫しさせ給へ！と、折からの朝陽を拜跪して祈りに祈つたところ、突如、天地闇黑となり凄まじい雷鳴が轟き地は震撼し、一條の電光を縛つて天帝から神器スルタと、喇叭及び一卷の神書が授けられた。

欣喜した汗は、殘兵を整へ白馬に打ち乘つて陣頭に神器スルタを翳すと、敵は忽ち慴伏し、算を亂して敗走したので、九死に一生を得た汗の軍は大勝を重ね、夥しい戰利品を獲つて凱旋することが出來たのである。

神器スルタは此の日以來、全蒙古民族の絕對に尊畏するところとなり、蒙古民族の守護神として戰へば必ず勝つ神の威を遺憾無く發輝し、內外蒙古、支那本土、歐洲に亘る大帝國の建設を完うすることが出來た。

神器を賜つた場所に奇しくも三本の大樹が成育し、以來樹木繁茂して樹林

を成したので、蒙古人達は今もつて此の地をミンガモトと稱んでゐる。ミンガモトは千本の木、即ち數多い木の意味である。

かくて、唐克特王國の第一回の攻略を終へた翌年、オノン河水源地方に血族、僚友、ノヤン（官人）、バガトル（勇將）等の貴族氏長を召集して、大クリルタイ（大聚會）を開催し、毛氈の帳裙ある國民、即ち蒙古民族の最高權威者たる汗の位に即いた。

蒙古源流、元朝祕史、黄金史、蒙古史（ドウソン）等は齊しく記して、

「丙寅の年、オノン河の水源に九脚の白纛を樹てハガンの大位に即く。」

蒙古源流の譯者であり、言語學、民族學の權威江實氏は、白纛とは神器スルタを指すものであらうと源流で註書きをして居り、ウラヂミルツオフは特に九脚の白纛はスルタであると明記してゐる。

「九つの脚ある白き纛には、今やヂンギスハンの守護神が存在した。スルタは彼の軍隊を常に守護し、彼等を勝利に導いた。ヂンギスハンは總ゆる國民を征服した。それは長生の蒼天がかく定め給うたのである。」

從つてスルタは神であり、蒼天なのだ。こゝに、現今喇嘛と謂へば蒙古を聯想し、蒙古と云へば必ず喇嘛を語るほど、全蒙古民族にとつて不可分の關係にある喇嘛以前に、既に蒙古神道とも稱すべき蒼天の理念があり、シャアマンの流れがあることを見逃してはならぬ。

スルタを賜はつた成吉思汗は旭日昇天の勢ひで盛んに兵を興し、邊族五潘である蒙漢藏回や、隣國征定の陣を進め、五稜鉾型白金製のスルタは軍旗進むところ常に燦然と輝いて凡ゆる敵を畏服せしめ、杳く歐洲諸國にも馬蹄を印して、異民族達を震撼恐怖させ、これによつて未曾有の一大蒙古遊牧帝國を建設することが出來たのである。

從つて元朝歴代の帝は即位に際して必ずスルタを奉じ、神靈として、はたまた太祖成吉思汗の靈威として絶大の尊仰を捧げると共に、人民もまた絶對無比の神聖感を以て幾世紀もの間拜跪し尊畏して來たのだ。

成吉思汗園寢

蒙古の勢力興隆は必然的に隣接國である唐克特の西夏王國と抗爭を生ずるに至り、成吉思汗は一生の間に五回これを攻撃してゐる。

第一回は西紀一二〇五年、第二回は一二〇七年、次いで一二〇九年に第三回の攻略を行ひ、一二一八年には第四回の入寇を試み、そして第五回目には窩闊台、施雷を從へて一二二六年進擊し、瞬く間に諸城を屠つて黄河を渉り首府寧夏城を奪ひ、更に深く追攻して行つたが、途中病を得て秦州の都城に近い西江江畔で陣歿した。

侍臣等は慟哭して遺骸を汗が生前ボルハン・カンドル嶽上の一孤樹下に憩うて愉しい空想に耽り、

「此の地は我がオルドに相應はし、死なばこゝに葬れ！」

と謂つた故地へ遷移しようと、黄金の柩を大車に奉載し、五色の駿馬に曳かせてオルドスを戻りつゝあつた途中ムネ山近くの穆納之諾爾で突如柩車が停つて動かず、スルタもまたこの地オランムル河畔に止つて進まなかつた。

五色の駿馬が苦し氣に首を振るが、車は石のやうに重く、人々は深く憂慮してイむと、切々たる聲を草原に響かせて蘇尼特部のギルゲイ・バガトルが挽歌を奏唱して拜跪した。

妃クルベルヂンを美しとてか
君に歸依せる
タングットの民多しとてか
惜むべき
古きモンゴルを捨て給ふや君よ
あゝ　我が主上よ
惜むべき
君が黄金の命を出さば
玉の如き
君が死體をとりて歸らん
君が妃ブリテゲルヂンに覽せばや
君が普き諸民に贈らばや

汗の靈は憐んで柩車は粛々と動き出した。妃クルベルヂンは唐克特王國の王妃で、その美貌は汗を始め全大國を驚嘆させる程であり、寧夏攻略で汗が奪娶したものであるが、薄命を愁しみ貞節を全うする爲に入水して果てた。

由來、この地オルドスは汗の御靈が停つた由緣の地として、全蒙古民族の銘記するところとなつたが、將にオルドスは軍事的、政治的、經濟的重要の地であり、御靈の停つた地をイヂンホロ（主上の園寢）と名付けて太祖の靈を祀り、特に太祖の近親、重臣五百戸を選んで守陵に任じさせ、世襲制としてこれをダルハトと呼んだ。

蒙古中興の英主でありオルドスの祖である成吉思汗十六世の達延汗が、オルドスに親征した折、この事を聞きそしてまた

「老人の住みよき地、飢ゑ衰へたる孤鹿の住み良き地」

即ち、生前成吉思汗がオルドスを賞讃した言葉をも傳へ聞き、武將であり孫に當る袞弼哩克圖墨爾根（ホンピリクトモルゲン）を濟農に任じ、白八室（オルド）を築かせて、ダルハトを濟農直屬として祭祀を司らせると同時に、こゝより西北約二十支里のそのかみスルタが停止して進まなかつた場所にスルタを奉安し、スルタホロとして祭祀を司らしめて來たのである。

從つて白八室は、スルタと共に太祖の園寢として全蒙古民族の神聖な魂の據り所となり、達延汗はこの前で嚴かに汗の位に就き、太祖の御靈に即位する事を謹んで告げたのであるが、それ以來、汗の大位に就く者は必ずこの白八室の前で即位式を擧行する事を掟としたのであつた。

このオルドには、直接御靈を象徴する偶像的なものは何もない。

靈は空間に無形のまゝで存在し、常に民族を守護して止まぬのだと、蒙古人は云ひ、唯、成吉思汗愛用の弓箭、金の馬鞍、刀劍が夥しい寶物、遺品とともに今も猶、太祖の靈籠るものとして嚴肅に祭られてゐる。

日本人が神を尊び、神社を敬ふやうに、蒙古民族のイヂンホロのオルドに對する神聖畏敬は絶對的なものであつて、清朝は特にダルハトの制を設け、特に毎年銀五百兩を祭祀費として贈るのが定めであつた。

理藩院則令には

「伊克昭盟内に成吉思汗の園寢ありオルドス七旗は夙く設けて園寢を看守し、祭祀を承辨する守衞五百戸ありて毎年銀五百兩を出し、且つ濟農なる札薩克一名を選定し、專ら經理を司る」

春秋の成吉思汗大祭には、清朝は必ず帝の代理を親しく派遣して、國家的祭事として盛大に式典を擧行したものである。

さあれ、蒙古民族の裡には、このオルドとスルタを通じ、幾百年もの歳月を貫いて今猶脈々と成吉思汗の魂が生きてゐるのだ。

スルタ來現

異民族にとつては單なる興味と學的研究以外の何物でもないものであつても、それを繞り、それを護る民族にとつては生命を投げうつて保持し、絶對感を以て守護するものが隨分あるが、イヂンホロやスルタが不變の神聖な畏仰のもとに蒙古民族の魂を擧集してゐることは明白なので、支那事變勃發に伴ひ、老獪な蔣介石は、オルドス工作と對蒙政策上、先づスルタを自己の勢力内に移すことが肝要であるとし、武力を以て奪ひ去らうとしたが、長城を越える時にトラックが轉覆して夥しい死傷者を出した上、兵士の間に病名不明の惡疫が猖獗を極めたので、蒙古人達は口を揃へて正しくスルタの神罰だと怨嗟の聲で野を滿したため、流石の重慶側も狼狽して直ちにもとのスルタホロの地へ奉還して來た。

スルタは武の神であり荒神なのだ。

正義に立てば萬敵を撃滅し、不義に用ひんとすれば忽ち神怒を蒙る。

スルタ曇りを生ずれば凶事あり、また外敵現はれるの徴候と傳へられ、また盟旗の吉凶を顯示する神力を有し、無心の鳥でも上を翔べば即時落死すると謂はれて居り、且つスルタの柄を捲いたハダックが解けた時は蒙古の一大事が生起するとも信ぜられてゐる。

「汗の靈魂がスルタに入り、自らの光榮ある氏族の守護神になつたものと信じ、今も守護神として蒙古人を支配してゐる。」（ウラヂミルツオフ成吉思汗傳）

この偉大なるスルタが、昭和十七年十一月に敵地區下のスルタホロから皇威のもと、伊克昭盟公署の行政浸透地區内である達拉特旗西磧房に來現したのだ。

新刊
第一書房
本社直接御註文謝絶
御註文は最寄書店へ

文學博士 西村眞次著
萬葉集傳說歌謠の研究
A5判三〇〇頁 價三・六五

高階順治著
日本精神哲學論攷
A5判五一六頁 價五・六五

下村湖人著
若き建設者
B6判三二四頁 價二・一〇

與田準一著
幼兒の言葉
B6判三二〇頁 價二・一〇

シユトレムベルク 大島豊譯
宇宙の精神
B6判二九六頁 價二・六〇

シエーラー 篠田一人譯
人間における永遠なるもの
B6判四八〇頁 價三・六五

アナトオル・フランス 堀口大學譯
フランスの天才達
B6判三二〇頁 價二・一〇

ダルハトが老いの身でこれを捧げるのに、衣服の上では畏れ多いとて、凜烈たる朔風荒ぶオルドスの眞冬に、裸身の背へ高く負ひ、オルドス挺身隊長森蓋林慶の率ゐる挺身隊が警備して、蒙古古式に則る卦を立て地を卜して假安置所を設へた大樹灣に奉安したのであるが、神器現はるの聲に歡呼した旗民達は沿道に拜跪し、凍土に頭を伏せてむせび泣くのだつた。

盟長阿王は、これこそ正しく太祖が伊克昭こそ蒙古復興の先達たれ！と告げ給ふのだと欣喜恐懼し、黒澤隆世參與官と共に奉迎した。

それ以來、我々はスルタを奉じて大東亞建設に蹶起するのだ！とのオルドス旗民の聲が昂まり、イヂンホロの古事と蒙古復興の推進を慮つて、イヂンホロと同樣同形の宮殿型包の建設に着手し、これを成吉思汗聖宮としてスルタと併祀することになつた。

オルド及びスルタの祭祀

イヂンホロの祭典は、草原には既に良の空氣が流れる舊三月二十一日に、いと盛大に擧行される慣はしで、郡王旗王府の南方約四十支里の地點にある一砂丘上のオルドで營まれるが、この日は成吉思汗大祭日である。

伊克昭盟でも、神器來現の歡喜に燃えて勇躍成吉思汗聖宮建設の工事に着手し、不眠不休、旗民の聖汗作業を得た上、現地旗長並びに窪田指導官以下の熱誠で見事に期日前に完成した。

新らしく組立てられた白八室は、イヂンホロと同型で、天傘六十八本、側骨六十四本及び中央四本柱から成り、骨柱は全部香り高い白檀製で、普通包の三倍の廣さを有ち、矩形大型で特に天窓が無く、頂上には金色燦然たるガンジュルを飾るのを特色とする。謂ゆる宮殿型の包である。

祭禮日には、包は四隅に蒼天高く炎型縁飾りを附けた三角旗に各〻龍虎獅鳳傘が立てられるが、鳳旗はガンジュルを中心として天地方圓、鳳傘と共に帝座を意味し、これは何れも支那の影響を受けたもので、北京の天壇の建築と同じく儒教の思想が表はれてゐるのは面白い。

祭主は必ず濟農が司るのであるが、祭事は濟農の指揮を受けてダルハトが執行し、他の如何なるものも容喙することが許されぬ。

祭典は、ダルハトの唱詞から始まりハダツクを献じ、燈を献じ、香を捧げてから五茶と稱して羊肉を奉り、ダルハトの祭詞を奉唱するのに連れて參列者はオルドに進み三跪九拜するのであるが、これは參列者一同を九回乃至二十一回に分けて行はねばならぬ定めてある。

これが濟むと、聖甘露を捧げる。

この聖甘露は、成吉思汗が曾て天帝から賜つた甘露を、弟のハサル達が嫉んで我々にも分ち與へよと云ふので惜し氣なく與へたところ、熱湯の如く沸り上つて如何しても口にすることが出來ず、笑つて汗が飲めば芳香甘味となるので、流石のハサル達も兄こそ汗となるため天帝が降し給うた人であると悟つたと傳へられる事を紀念し、天帝の御意志を繼ぐ約束のために頒ち飲むのであるが、この折は故意にこぼれ流れるやう銀の大盃を傾けるので、祭場は暫く和氣靄々たる哄笑、爆笑が和やかに湧き上るのである。

これが濟むと、太祖の靈籠る遺品弓箭に同じく献吟達、献燈、献香、献上茶、献聖甘露の儀を執り行ひ、濟めば白馬に置いた金鞍にこれを繰り返す。

この白馬は絶對に人が乘つた事の無い純白の牡馬でなければならず、日頃は細心に注意を以て草原に放牧して置くのである。

やがて祭品も頒ち終ると、オルドの中に進んで聖火を祭る。

火を祭るのは何處の國民にも名殘りを留めてゐるが、特に蒙古の式典では特色をもつてゐる。

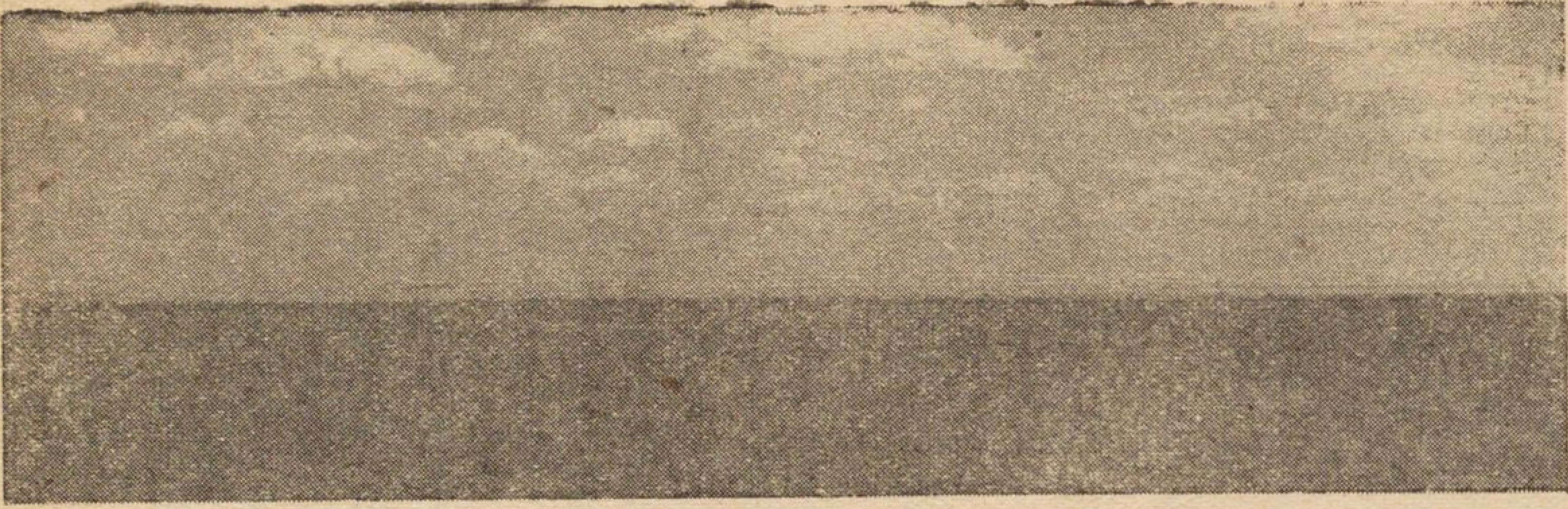
猶、特に他の祭典に見る事が出來ぬのは、ダルハトの先導で一同が拜跪すると き、帶を解いて衷心から祈りを捧げる事である。これは昔時、成吉思汗が難を避けてブルハンハルドの聖山に祈念を凝らしたことに由來するものであらう。

この日は、特にスルタ來現を感謝しスルタ大祭も執行されたが、祭典の情況は大略同樣であつた。

蝟集する蒙古人達は、首にハタツクを捲き、黒い頭を奉つて三世までも仕へまつる事を現はしてゐるが、祭典では武官は脱劍して忠誠の情を表はさねばならぬ。スルタ祭は舊七月十四日を式典日とするのが慣はしてある。

この祭には、羊九頭乃至十一頭を捧げねばならぬが、十二年目毎に大祭が執行され、その折は八十一頭を献ずる事になつてゐる。

スルタ祭は嚴重な女人禁制なので、絶對に女人は近づく事が出來ないが、杳くから望み見る事だけは許されてゐるので、張幕の陰から長く澄んだ眸を覗けつゝ賑はひを望見してゐるのは洵に蒙古らしい風情でもある。



蒙古草原に憶ふ

石田英一郎

陰山山脈を乘越えて、蒙古高原を北へ北へと走つても、漢人移住民の耕す農耕地帶は斷續的ながら何處までも打ち續いて、彼等の持つ生活力の逞しさ粘り強さを思はしめるが、それも漸く絕え絕えになり、粘土の小屋や農場を圍む土壁の彼方に白い蒙古包の影がチラホラ見えはじめる頃から、四圍の眺望は純然たる大草原地帶の風格を帶びて來る。

ゆるやかに起伏する丘陵の連續、視界一面を覆ふ青草の褥、清澄な大氣の中に悠々と草を喰む駱駝の群。一つ丘を越えれば行手には同じ様な低い丘がまた一つ。かうして何時果つべしとも知らぬ單調な風景が無限の蒼穹の下に打續くのである。この一大草原こそは、此處彼處、沙漠を交へつゝ遠く中央アジヤを貫いてヨーロッパの東端に迫り、他方イラン高原を超えて西南アジヤからアフリカの沙漠にまで連つてゐるのであらう。

舊大陸を稍〻斜に横斷するこの一大沙漠草原地帶、それは古來無數の遊牧民族の去來活躍を重ねた舞臺であり、東西の史籍にもその名を留める幾多遊牧民國家の榮えては亡び去つた墓場でもある。今私はこの地帶の東端に立つてゐるのだ。この大自然の懷に抱かれつゝ靜かに悠久な人間の歷史を顧る時、私の眼にはどうしても先づ、この草原に興つて雄渾な軍事的遠征を試みた過去の遊牧民族、たとへば、スキタイや匈奴、突厥、降つては成吉思汗時代の蒙古民族などの姿が、この背景に最もふさはしいものとして浮んで來ずには居られない。それは今日のグロテスクな喇嘛廟や退嬰的で卑屈にさへ見える喇嘛僧の群などとは、何となく本質的に異つたものの様に思はれるのである。

大家畜群を伴ふ數十萬騎の大軍が、瞬時にして偉大な統率者の下に集結し組織せられ、海濤の如くこの大草原を疾驅する光景――それは今日にあつては最早や永遠に過去の夢に過ぎないかも知れぬとはいへ、尙且つ、われわれの心眼はかゝる光景を歷史の記錄から描き見ることが出來るのである。それは大膽不敵にして勇猛果敢、廣闊な視野と快速度の移動性とを有する民族の一團であつた。

アジヤ內陸に興つたこの種の遊牧民族が、この草原を背景に大規模の統一を遂げた時代、彼等は屢〻恐るべき政治的軍事的勢力となつて、南方農耕民族の發達した文化とその國家とを脅威し、時に農耕民をその馬蹄の下に征服して、新らしい大統一國家を樹立することさへあつた。否アジヤ大陸の過去の歷史は、この南北二系統の民族並に文化の對立抗爭を樞軸として展開されて來たといつても過言ではあるまい。

然らば、遊牧民族のかうした强大な驀進力は何處に胚胎したものであらうか？數的にも質的にも退化の一路を辿り來つた現在の遊牧民ではなく、內陸アジヤに生れ且つ榮えた過去の遊牧民

族の精神は如何なるものであつたらうか？殊に純乎たる遊牧民族本來の性格は如何なる點に於て農耕民のそれと異つてゐたであらうか？　これらは數多くの興味ある解答を文化史家や民族學者に促し來つた問題である。

今、アジヤ大陸を貫く大草原地帯の東端に立つた私は、この大自然との聯關に於てかゝる問題の一側面を考察してみたい。

×

山の彼方の空遠く
幸棲むと人のいふ。
われ人ともに覓め行きて
涙さしぐみ歸り來ぬ。
山の彼方になほ遠く
幸棲むと人のいふ。

西歐の詩人の歌つたかうした境地は一つの河谷や盆地に父祖代々定住して生活する農耕民の世界にこそふさはしいものであらう。水草を逐うて移動する草原の遊牧民にとつては、あの起伏する緑の丘の彼方に決してこの様な神祕はあり得ない。現にどの丘の蔭には何といふ部落があり、その先のどの地點には何某の包がある、といふことはどの蒙古人に聞いても明白に知つてゐる。彼等の地理的知識と視野の廣さは到底農耕民の比ではない。一たびその頑健な蒙古馬を飛ばせば、數十里の彼方も同じ隣組である。

今日、蘇聯や赤軍を怖れることを知る彼等の世界の限界をなすものは政治的な區劃であつて、自然的な條件ではない。從つてこの政治的な限界を知らなかつた時代、或は偉大な指導者の下に、この廣大な領域の統一を見た様な時代の遊牧民の世界觀は、今日の蒙古人などに比し、更に遥かに雄大なものであつたに違ひない。

×

既に『山の彼方』には未知の世界を知らず、頭上には果しなき大空を頂く鬱然たる森の神祕に驚き、山川の神々や草木の精靈を畏れる定住農耕民に比し、遊牧民の思惟は又遥に合理的でもあつた。

「然も彼の地多に螢火の光く神及び蠅聲す邪しき神あり、復た草木咸能く言語ふことあり。」

といふ日本紀の記録を一つの典型的な南方的、植物的、アニミズム的世界觀とすれば、匈奴の王が山上に白馬を刑して天を祭つたといふ漢書の記載の如きは、このアジヤ內陸の草原の民に固有の信仰を示すものであらう。

見知らぬ山の彼方から、ひそやかに村里をおとなふのが農耕民族の神々ならば、怒れば天上から雷と雹を遣つて不信の徒を打ちたまふイスラエルの神イエホバの如きは、牧畜民族本來の系統を引くものではあるまいか？

一望遮ぎるものなき天空のもと、無涯の曠野を放浪へる遊牧の子には、八百萬の神々や精靈の入り亂れた複雜怪奇なパンテオンよりも單純にして透徹合理的で一元的な宇宙觀の方がはるかにふさはしかつたのである。

嘗つて印度を過ぎたドイツの一哲學者は、萬象の生々流轉を強調する佛陀の現象論は、植物の繁茂の速かに、その寸時も休む暇なき生成の力すさまじき印度の如き環境に於て、はじめて能く理解し得たと云ひ、佛教を評して熱帶の福音、植物生育の教理となした。

我々は南支那に生れ、恐らく古代印度の思想とも接觸があつたかと思はれる老莊の學や、道教の世界の中にも、やはりこの種の南方的、植物的、農耕文化的な息吹きを感じる。だが、あの鄒魯の學、儒教の中樞を貫く天の思想や猶太教、基督教、回教などの在天の唯一神を信ずる宗教には、どうしても印度教、佛道、道教などと異つた系統の文化に由來するものがある。それは、アジヤ大陸を東北より西南に横斷した沙漠草原地帯に生れ、久しく南方の農耕文化と相隔絶した獨自の生長を遂げた遊牧民族本來の思想と信仰とにその根源を有するものであらう。

夕闇の迫るころ、ひとり草原の石上に坐し、遠くの牧地から夕餉の煙立つ包のほとりに逐はれて來る畜群の物悲しげな聲を聞きながら、星屑の瞬く穹窿を仰いでゐると、菩提樹の下に永劫の輪廻からの解脱を觀じた釋迦牟尼の教よりも、そのヒラーの丘に突如アルラーの啓示を傳ふる天使の聲を聞いて畏れ戰いたマホメツドの苦惱の方が、かうした環境には寧ろ自然な樣に感じられてならないのである。（蒙古百靈廟のほとりにて感ありしままに――）

七月號
（毎月一回一日發行）
昭和十八年六月十五日印刷納本
昭和十八年七月一日發行
編輯者　北京・華北交通株式會社資業局　加藤新吉
發行者　東京都麹町區三番町一　長谷川巳之吉
印刷者　小石川區久堅町一〇八（東京）（二〇四）共同印刷株式會社　古川一郎
發行所　東京都麹町區三番町一　第一書房
振替 東京六四二二三番
電話九段(33)一四一五番・三三四四番
會員登錄番號一一六五〇八番
一册定價(停)三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分　金三圓六十錢
配給元　東京都神田區淡路町二丁目九番地　日本出版配給株式會社

禁無斷轉載・檢閱濟

製法特許の

純正化學療法劑

ポレオン「日染」は内服により血液、體組織へ殺菌性、抗菌性を賦與し病源菌を殺滅し治癒せしむるを特徴とする純正化學療法劑なり

適應症

扁桃腺炎
齒槽膿瘍
中耳炎
急・慢性淋疾
化膿性婦人科疾患
其他あらゆる化膿性疾患

二〇錠・一〇〇錠

NISSEN

ポレオン錠「日染」

製造發賣元　日本染料製造株式會社　大阪市此花區春日出町
一手販賣元　稻畑産業株式會社　大阪市南區順慶町二丁目

P−251

NISSEN

砒素驅黴劑

"日染"の新發賣！

今般弊社が完成したサビノールナトリウムは日本藥局方アルゼノベンゾールナトリウムに一致し其の規格に適合然も嚴密なる効力試驗並に臨床試驗を經て發賣す。

時局下眞面目なる醫藥の要望さるゝ折柄自信を以て御薦めし得る「日染」の驅黴劑を御認識賜はり御愛用あらん事を誌上を以て懇願申上げ新發賣の御挨拶に代へる次第であります

一號 二號 三號 四號 五號 六號
各一管入及一〇管入

サビノールナトリウム

製造發賣元
日本染料製造株式會社
大阪市此花區春日出町

一手販賣元
株式會社稻畑商店
大阪市南區順慶町二丁目

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可 昭和十八年六月十五日印刷納本 昭和十八年七月一日發行（毎月一回一日發行）第五十號

強力メタボリン錠

我々か攝取する含水炭素が充分に酸化せられずして乳酸又は焦性葡萄酸の蓄積となり……

疲勞を來し、筋肉痛、肩凝り、腰痛、神經痛等の一因となり心身を弱化せしむ

即ち高單位ビタミンB_1はこの蓄積物質を分解・解毒し組織の機能を正常ならしむ

其の他……

胃腸疾患・肺結核・肋膜炎等の消耗性疾患時の榮養補給、脚氣等に

V・B_1含有量一錠中〇・五ミリグラム

☆一〇〇錠　三〇〇錠

製造發賣元 株式會社 武田長兵衛商店 大阪道修町

北支（停）定價 三十錢